

添付 4.3A-11

藤沢市要支援認定者の生活と介護に関するアンケート調査報告書

# 藤沢市要支援認定者の 生活と介護に関するアンケート 調査報告書

平成 15 年 ( 2003 年 ) 3 月

藤沢市  
慶應義塾大学看護医療学部

## < 目 次 >

### ．調査について

- 1．調査目的
- 2．調査方法
- 3．回収結果
- 4．注意事項
- 5．調査の概要

### ．調査結果

- 1．アンケート回答者
- 2．対象者の属性
  - ( 1 ) 生活場所
  - ( 2 ) 性別
  - ( 3 ) 年齢
  - ( 4 ) 家族構成
  - ( 5 ) 居室の階数
  - ( 6 ) 主な介護（支援）者
  - ( 7 ) 周囲の状況
- 3．生活機能
  - ( 1 ) 生活機能評価項目
  - ( 2 ) 生活機能評価得点
- 4．行動範囲と活動状況
  - ( 1 ) ひとりで行動する範囲
  - ( 2 ) 付き添いがあるときの行動範囲
  - ( 3 ) 外出の頻度
  - ( 4 ) 同居以外の人とおしゃべりの頻度
  - ( 5 ) 行動範囲の変化

- 5 . 転倒のリスク
  - ( 1 ) 転倒アセスメント
- 6 . 食生活と栄養
  - ( 1 ) 食生活と栄養についての問題
- 7 . 在宅サービス
  - ( 1 ) 在宅サービスの利用
  - ( 2 ) 利用しているサービス
- 8 . 今後知りたい情報 ( 本人 )
  - ( 1 ) 生活に関して今後知りたい情報
- 9 . 主な介護 ( 支援 ) 者について
  - ( 1 ) 性別
  - ( 2 ) 年齢
  - ( 3 ) 介護についての困りごと
  - ( 4 ) 介護についての情報を得る手段
  - ( 5 ) 介護についての情報を得たことがない理由
  - ( 6 ) 介護に関して今後知りたい情報 ( 介護者 )
- 10 . 自由回答

**・ 調査用紙**

## ・ 調査について

## 1．調査目的

本調査は、2002 年度より藤沢市で実施する「e-ケアタウンプロジェクト」の一環である。介護保険で要支援認定を受けられた方の日常の活動状況、およびご本人やご家族が日常生活や介護についてどのような情報を必要としているか等を把握し、要支援認定者のご家族のための「e-介護プログラム」開発に向けた基礎資料とすることを目的とする。

## 2．調査方法

調査地域： 藤沢市全域

調査対象： 介護保険制度において「要支援」と認定された者 300 名、およびその家族

抽出方法： 平成 14 年(2002 年)10 月 31 日現在の要支援認定者 1283 名の中から、介護サービス利用者と未利用者の比率の下に 300 名を無作為抽出した。

調査依頼： 依頼文を添付したアンケート用紙を藤沢市介護保険課から、対象者に郵送した。なお、依頼文には、回答は自由意志によるものであり強制ではないこと、また、データ集計および分析は慶應義塾大学が行うことを明記した。

調査期間： 平成 14 年 11 月 22 日～12 月 6 日

回収方法： 同封の返信用封筒にて、藤沢市福祉健康部介護保健課宛に無記名での返送とし、回収した。

\* 調査に際しては、事前に慶應義塾大学看護医療学部研究倫理委員会の承認を得た。

## 3．回収結果

郵送数： 300 部

回収数： 226 部      回収率： 75.3%

## 4．注意事項

調査対象とする家族は、対象者の日常生活を主に支えている者とし、「主に介護（支援）している者」もしくは、介護（支援）者と表記した。

集計結果中の「不明」とは、無回答、無効回答が含まれる。なお、「9．主な介護（支援）者について」の項では、特に介護（支援）者がいないもの、介護（支援者）が家族ではないものも含まれている。

作表、作図の都合上、回答の選択肢の言葉を短縮して表現している場合がある。なお、「5．転倒アセスメント」の項では、アセスメント各項目の語尾をすべてリスクを表す表現に変換し、一目でリスクの比率がわかるよう統一した。

## 5. 調査結果の概要

- (1) 回答にあたっては、65.5%が要介護認定者「本人」が記入していた。
- (2) 対象者（要支援認定者）について  
対象者は「女性」が72.1%と多く、年齢は「75歳以上」が80.5%と大部分を占めていた。家族構成は「ひとり暮らし」が35.4%と全体の1/3以上を占めており、「男性のひとり暮らし」の20.6%に比べ、「女性のひとり暮らし」は41.1%と多かった。
- (3) 生活機能について  
老研式活動能力指標（生活機能アセスメント表）を用いた。生活機能得点は、男女による差はほとんどなく、年齢別では、65～74歳の群が他より若干高かった。  
（個別項目については、調査結果参照）
- (4) 行動範囲と活動状況  
ひとりで行動する範囲は「隣近所まで」が33.6%、「バスや電車で行かざるところまで」が41.2%であるが、付き添いがあれば83.6%のものが「バスや電車で行かざるところまで」を行動範囲としていた。また、外出の頻度は「ほぼ毎日」あるいは「2～3日に1回程度」であるものが約60%を占めていた。しかし、約80%以上が「以前に比べて行動範囲が狭くなった」と感じており、その理由としては「すぐに疲れる」が約60%を占め、次いで「手・足が不自由である」「身体的に不安がある」「痛みがある」等があげられていた。
- (5) 転倒のリスク  
「この1年間に転んだことがある」ものが42.6%と多く、リスク項目としては、バランス能力の低下を示す「片足で立ったまま靴下をはくことができない」ものが78.8%、転倒の外的要因となる「日常、サンダルやスリッパをよく使う」ものが61.5%、内的要因となる「睡眠薬、降圧剤、精神安定剤を服用している」ものが57.1%と多かった。また、半数近くのものが「転倒に対する不安が大きい」と感じていた。
- (6) 食生活と栄養  
食事の量が少なくなっているものが半数近くあり、「この6ヶ月に、以前に比べて体重が減ってきている」ものが22.6%あった。ひとり暮らしが多いため、「一人で食事をすることが多い」ものが40%を超えていた。また、「歯や入れ歯、口の中に問題がある」「便秘が続くことがよくある」等も1/3以上あげられており、「食料を買いに行くのに不自由がある」「食事の支度をするのに不自由がある」ものが約20～30%あった。
- (7) 在宅サービス  
在宅サービスを現在利用しているものは半数強であり、そのうちの66.1%が「訪

問介護」の利用であった。

( 8 ) 今後知りたい情報

生活について今後知りたい情報は、「転ばないための筋力をつける運動や、環境の整え方」「痴呆の予防方法」「介護保険制度やサービスについて」「栄養バランスの良い食事の献立」「手足の関節を動きやすくするための運動」が多かった。

( 9 ) 主な介護（支援）者について

主な介護（支援）者は、配偶者が 22.1%であり、「同居している子供」「同居の子供の配偶者」が合わせて 27.9%、「別居している子供」が 16.4%であった。また、「家族以外に介護（支援）者がいる」とヘルパーなどをあげているものが 12.4%あった。その他、とくに介護（支援）者はいないものもあった。（問7より）

「介護について困っている」のは全体の 25.2%であったが、内容としては「精神的に負担がある」「要支援者をひとりにしておくのが心配、外出できない」等が多かった。また、約 60%のものが「介護についての情報を得たこと」があり、その手段としては「本・雑誌・新聞」から「定期的なサービスを受けている専門職に相談」、「テレビ・ラジオ」から、「専門職に出向いて相談」が多く、「インターネットを利用した」ものはほとんどいなかった。

介護（支援）者が知りたい情報としては、「高齢者向けの献立」「転ばないための筋力をつける運動や、環境の整え方」「痴呆の予防や対応方法」「介護保険やサービスについて」等、順位は異なるが要支援認定者本人が知りたい情報とほぼ一致していた。

まとめ

今回の調査対象は要支援認定者であり、行動範囲は 80%近くが自宅以外の場所に出かけることができ、外出頻度は 1 週間に 1 回以上が 90%弱で、毎日出かける人も約 20%いるなど、比較的 1 人での活動が可能な人たちであった。一方で約 80%の人が、行動範囲が狭くなったと感じ、その理由として「すぐ疲れる」「手足が不自由」「身体的不安」をあげている。また、この 1 年間で転倒した人は 46%あった。これらのことから「要支援者」が現状を維持し、要介護状態とならないような対策として、筋力の低下予防や転倒予防の取り組みの必要性が示された。

また、介護者が必要としている情報は「運動」や「食事」に関するものが上位を占め、介護上困っていることは「精神的負担」や「一人にしておく不安」で、これらの情報提供や安心感を向上するための支援の必要性が示された。

対象者の年齢は 75 歳以上が約 80%を占め、家族構成では「ひとり暮らし」が最も多く 30%以上であった。情報提供は、高齢者自身が活用可能な方法の開発が必要である。

以上

## . 調 查 結 果



## 1. アンケート回答者

アンケートの回答記入者は、要介護認定者「本人」が最も多く 148 名（65.5%）、次いで「本人が答え、家族が記入」が 48 名（21.2%）、「家族が記入」した者は 11 名（8.4%）であった。

### 問1 回答者

	(人)	N = 226
本人	148	65.5%
本人が答え家族が記入	48	21.2%
家族が回答	11	4.9%
不明	19	8.4%

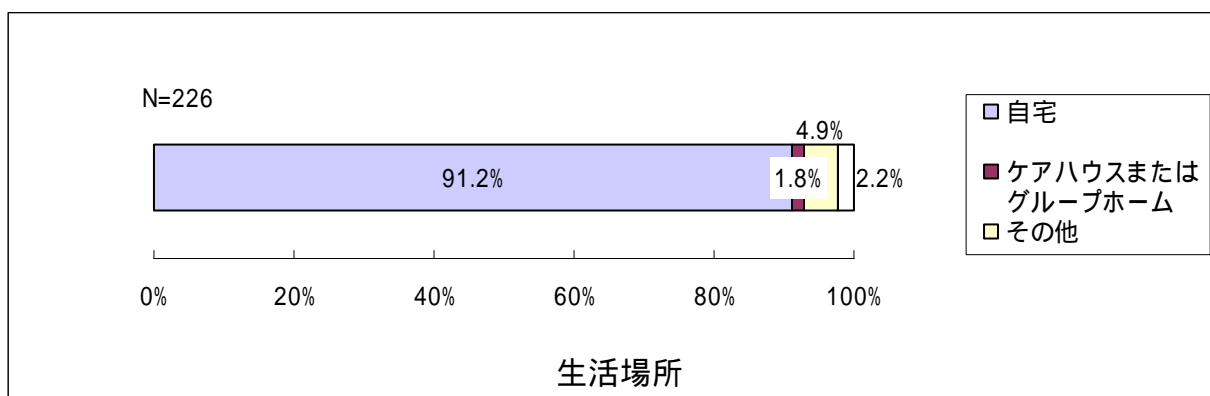
## 2. 対象者の属性

### (1) 生活場所

「自宅」が 206 名（91.2%）と大部分を占めており、「ケアハウスまたはグループホーム」が 4 名（1.8%）、その他が 11 名（4.9%）であった。

### 問2 生活場所

	(人)	N = 226
自宅	206	91.2%
ケアハウスまたはグループホーム	4	1.8%
その他	11	4.9%
不明	5	2.2%

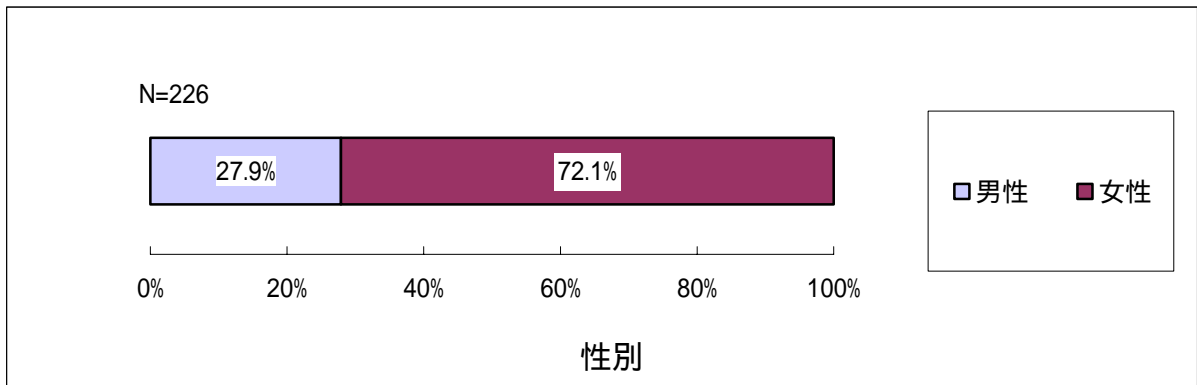


( 2 ) 性別

「男性」が 63 名 ( 27.9% )、「女性」が 163 名 ( 72.1% ) であった。

**問3 本人の性別**

	(人)	N = 226
男性	63	27.9%
女性	163	72.1%
不明	0	0.0%

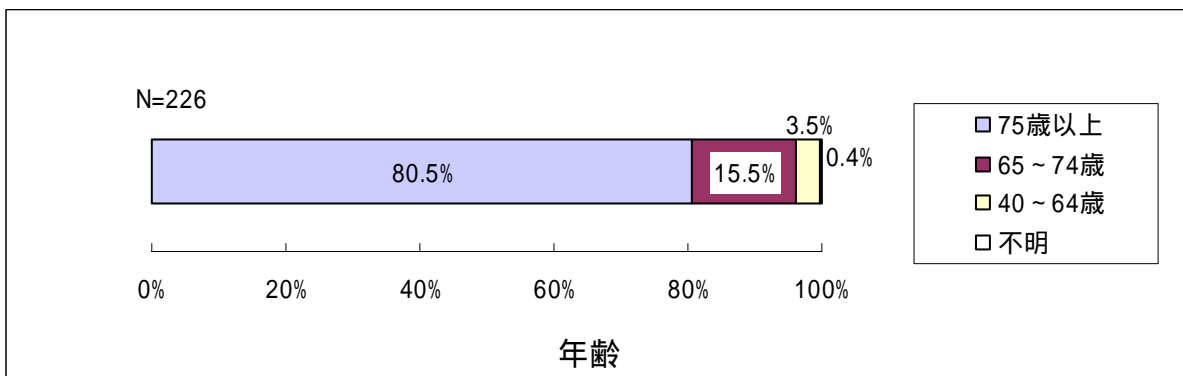


( 3 ) 年齢

「75 歳以上」が 182 名 ( 80.5% ) と大部分を占め、「65 歳 ~ 74 歳」が 35 名 ( 15.5% )、「40 ~ 64 歳」が 8 名 ( 3.5% ) であった。

**問4 本人の年齢**

	(人)	N = 226
75 歳以上	182	80.5%
65 ~ 74 歳	35	15.5%
40 ~ 64 歳	8	3.5%
不明	1	0.4%

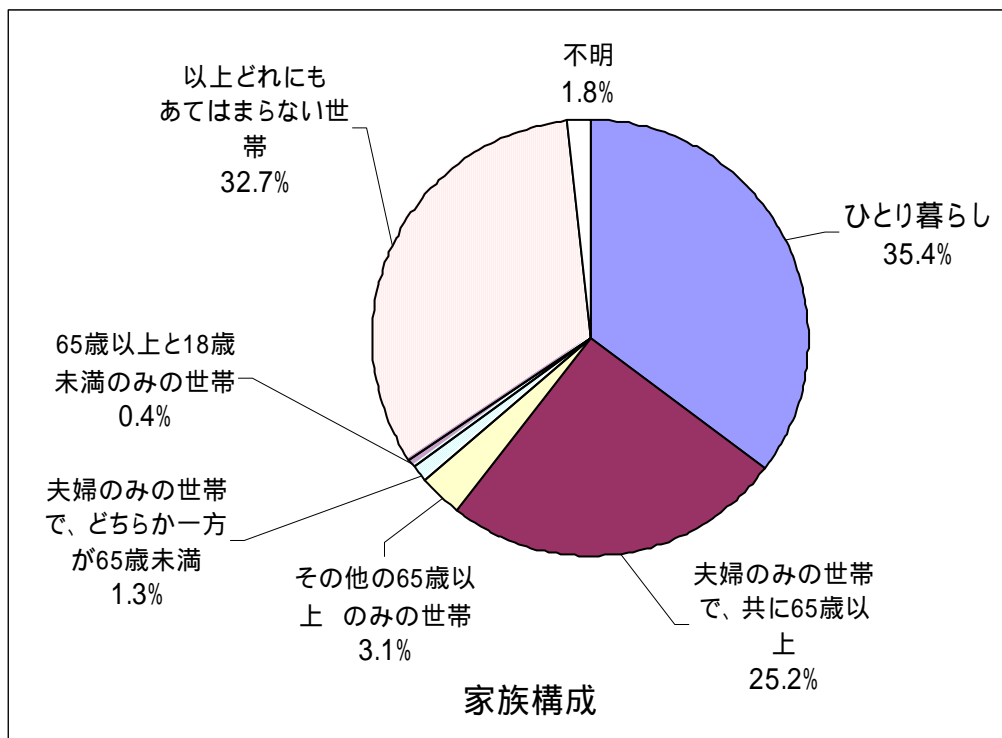


(4) 家族構成

「ひとり暮らし」が最も多く 80 名 (35.4%)、「夫婦のみの世帯で、ともに 65 歳以上」は 57 名 (25.2%) であった。また、成年者の家族と暮らしているもの(「以上どれにもあてはまらない家族」)が 74 名 (32.7%) であった。

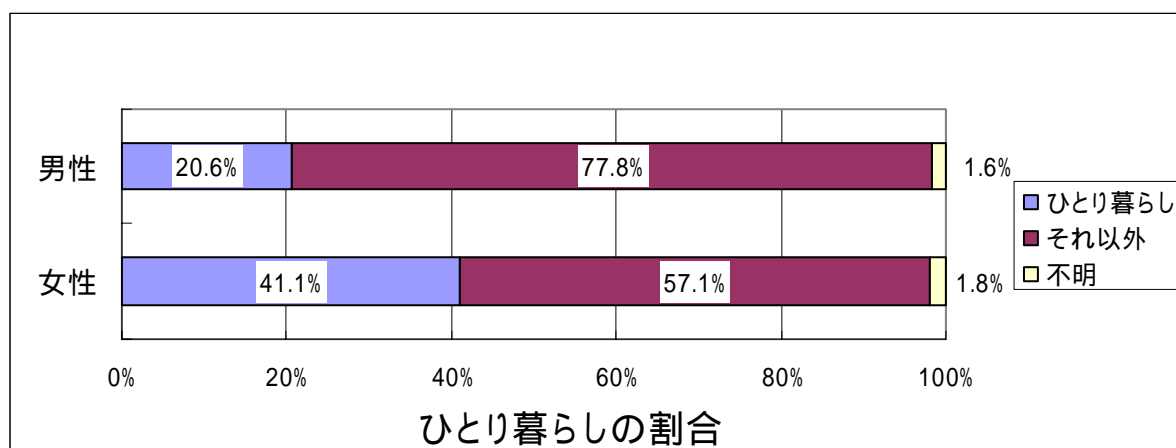
問5 家族構成

	(人)	N = 226
ひとり暮らし	80	35.4%
夫婦のみの世帯で、ともに 65 歳以上	57	25.2%
その他の 65 歳以上のみの世帯	7	3.1%
夫婦のみの世帯で、どちらか一方が 65 歳未満	3	1.3%
65 歳以上と 18 歳未満のみの世帯	1	0.4%
以上どれにもあてはまらない世帯	74	32.7%
不明	4	1.8%



対象者のうち、女性のひとり暮らしは 41.1%であり、男性の 20.6%より多い傾向にあった。

	ひとり暮らし	ひとり暮らし 以外	不 明	合計
男性	13 (20.6%)	49 (77.8%)	1 (1.6%)	63 (100.0%)
女性	67 (41.1%)	93 (57.1%)	3 (1.8%)	163 (100.0%)
全体	80 (35.4%)	142 (62.8%)	4 (1.8%)	226 (100.0%)



#### (5) 居室の階数

「1階」が 159 名 (70.4%)、「2階」が 44 名 (19.5%)、「3階以上」に暮らしているものが、20 名 (8.8%) あった。

#### 問6 居室の階数

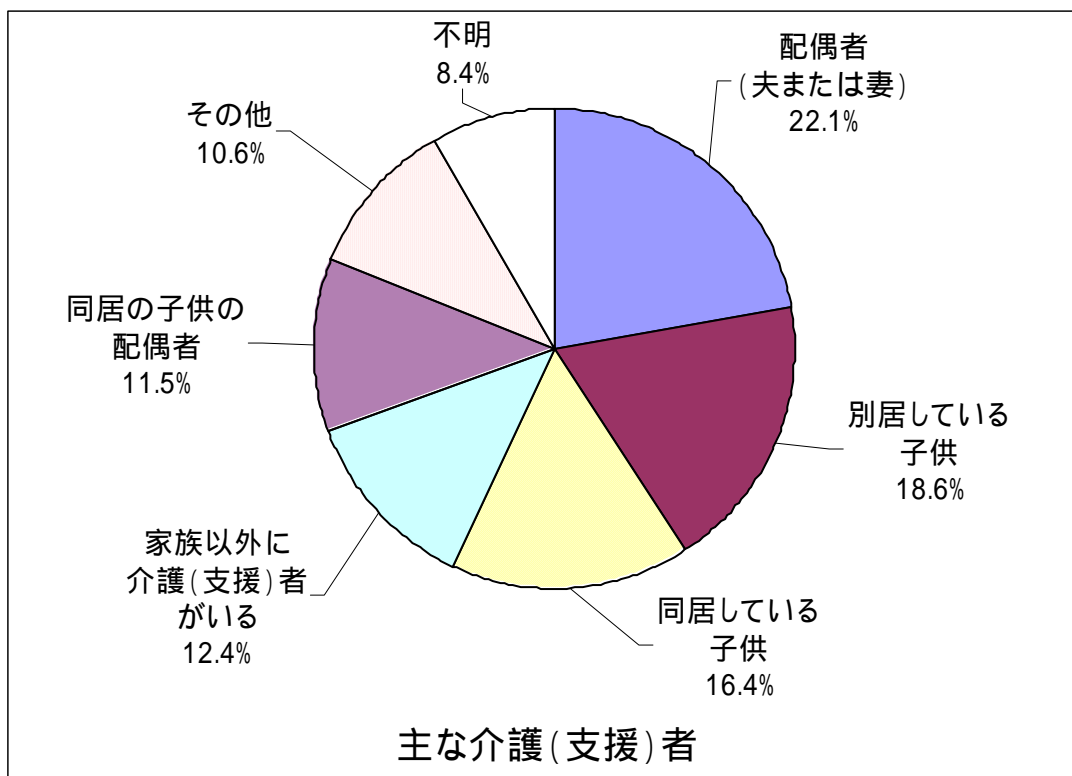
	(人)	N = 226
1階	159	70.4%
2階	44	19.5%
3階以上	20	8.8%
不明	3	1.3%

(6) 主な介護(支援)者

「配偶者(夫または妻)」が 50 名(22.1%)、「別居している子供」が 42 名(18.6%)、「同居している子供」が 37 名(16.4%)、「同居の子供の配偶者」が 26 名(11.5%)であった。また、「家族以外に介護(支援)者がいる」は、28 名(12.4%)であった。

問7 主な介護(支援)者

	(人)	N = 226
配偶者(夫または妻)	50	22.1%
別居している子供	42	18.6%
同居している子供	37	16.4%
家族以外に介護(支援)者がいる	28	12.4%
同居の子供の配偶者	26	11.5%
その他	24	10.6%
不明	19	8.4%



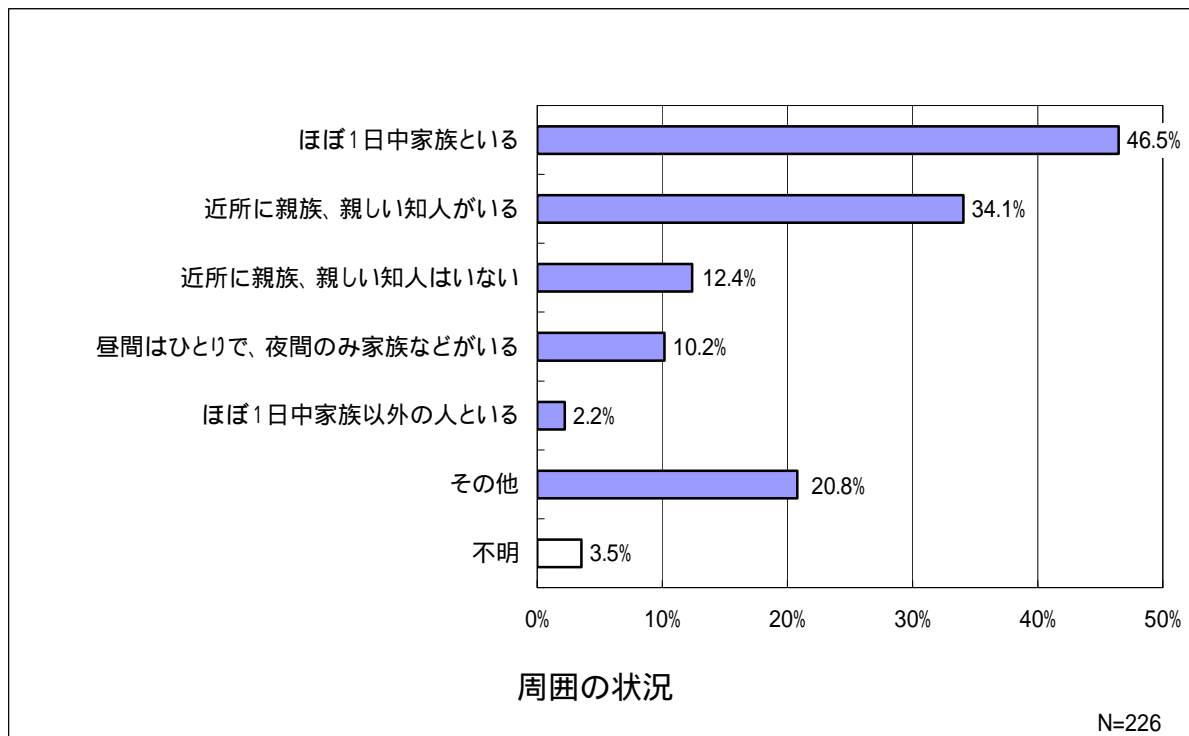
(7) 周囲の状況

「ほぼ一日中家族といえる」が105名(46.5%)、「昼間はひとりで、夜間のみ家族などがいる」が23名(10.2%)、「ほぼ一日中家族以外の人といえる」が5名(2.2%)であった。また、「近所に親族、親しい知人がいる」者は77名(34.1%)、「近所に親族、親しい知人がいない」者は28名(12.4%)であった。

問8 周囲の状況

(複数回答)

	(人)	N = 226
ほぼ1日中家族といえる	105	46.5%
近所に親族、親しい知人がいる	77	34.1%
近所に親族、親しい知人がいない	28	12.4%
昼間はひとりで、夜間のみ家族などがいる	23	10.2%
ほぼ1日中家族以外の人といえる	5	2.2%
その他	47	20.8%
不明	8	3.5%



### 3 . 生活機能

#### ( 1 ) 生活機能評価項目

老研式活動能力指標(生活機能アセスメント表)の各項目については、以下のとおりであった。

#### 問9 生活機能評価

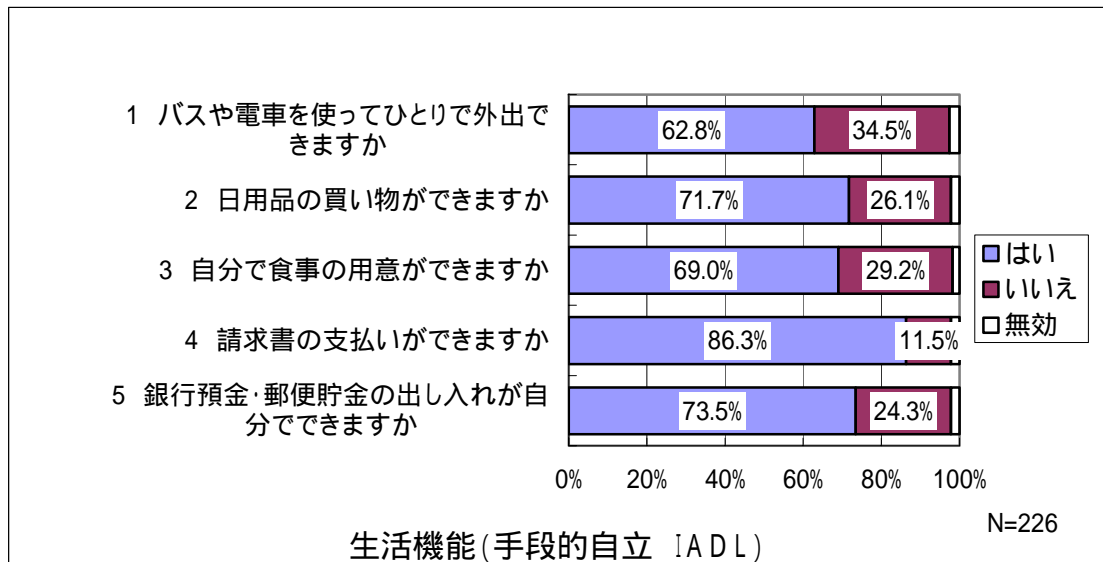
N = 226

人

	はい	いいえ	無回答
<b>&lt;手段的自立(IADL)&gt;</b>			
1 バスや電車を使ってひとりで外出できる	142 ( 62.8% )	78 ( 34.5% )	6 ( 2.7% )
2 日用品の買い物ができる	162 ( 71.7% )	59 ( 26.1% )	5 ( 2.2% )
3 自分で食事の用意ができる	156 ( 69.0% )	66 ( 29.2% )	4 ( 1.8% )
4 請求書の支払いができる	195 ( 86.3% )	26 ( 11.5% )	5 ( 2.2% )
5 預金等の出し入れが自分でできる	166 ( 73.5% )	55 ( 24.3% )	5 ( 2.2% )
<b>&lt;知的能動性&gt;</b>			
6 年金などの書類が書ける	158 ( 69.9% )	61 ( 27.0% )	7 ( 3.1% )
7 新聞を読んでいる	179 ( 79.2% )	43 ( 19.0% )	4 ( 1.8% )
8 本や雑誌を読んでいる	145 ( 64.2% )	75 ( 33.2% )	6 ( 2.7% )
9 健康についての記事・番組に興味がある	193 ( 85.4% )	29 ( 12.8% )	4 ( 1.8% )
<b>&lt;社会的役割&gt;</b>			
10 友達の家を訪ねることがある	79 ( 35.0% )	142 ( 62.8% )	5 ( 2.2% )
11 家族や友達の相談にのることがある	121 ( 53.5% )	99 ( 43.8% )	6 ( 2.7% )
12 病人を見舞うことができる	116 ( 51.3% )	103 ( 45.6% )	7 ( 3.1% )
13 若い人に自分から話しかけることがある	150 ( 66.4% )	71 ( 31.4% )	5 ( 2.2% )

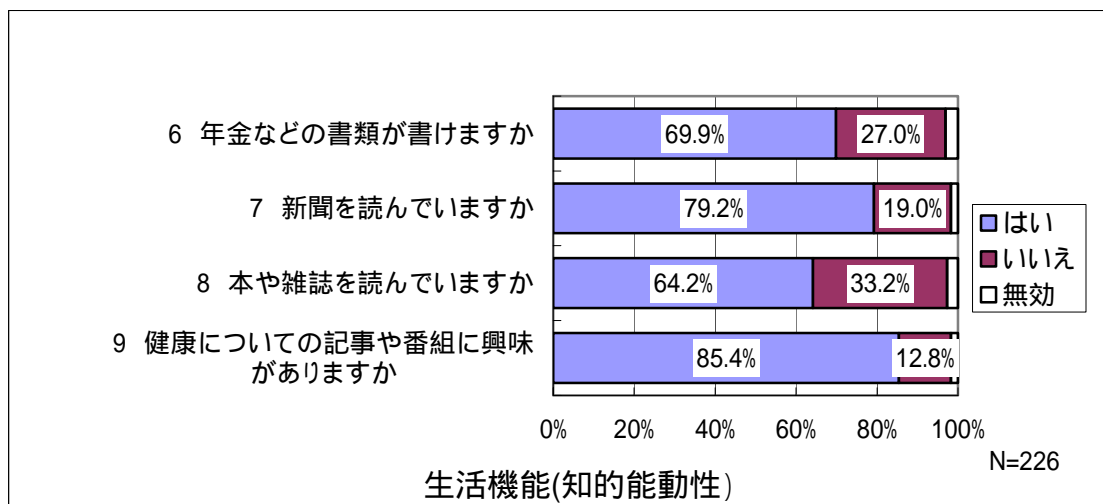
1) 手段的自立 ( I A D L )

「バスや電車を使ってひとりで外出できる」者は 142 名 ( 66.4% )、「日用品の買い物ができる」者は 162 名 ( 64.2% )、「自分で食事の用意ができる」者 156 名 ( 79.2% )、「請求書の支払いができる」者 195 名 ( 69.9% )、「銀行預金・郵便貯金の出し入れが自分でできる」者 166 名 ( 73.5% )であった。



2) 知的能動性

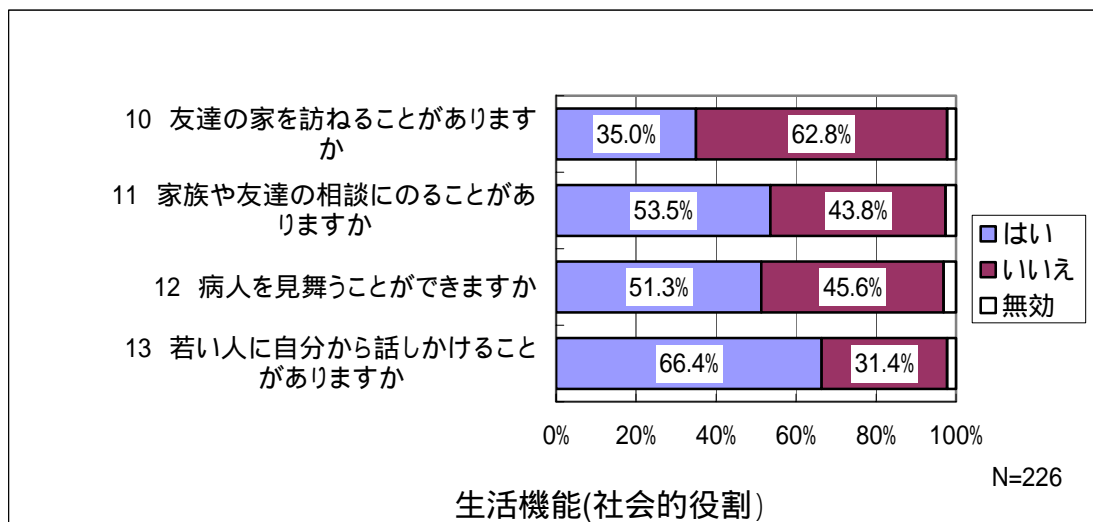
「年金などの書類が自分で書ける」者は 158 名 ( 86.3% )、「新聞を読んでいる」者は 179 名 ( 69.0% )、「本や雑誌を読んでいる」者は 145 名 ( 71.7% )、「健康についての記事や番組に興味がある」者は 193 名 ( 62.8% )であった。





### 3) 社会的役割

「友達の家を訪ねることがある」者は 79 名 (51.3%)、「家族や友達の相談にのることがある」者は 121 名 (53.5%)、「病人を見舞うことがある」者は 116 名 (35.0%)、「若い人に自分から話しかけることがある」者は 150 名 (85.4%)であった。



### (2) 生活機能評価得点

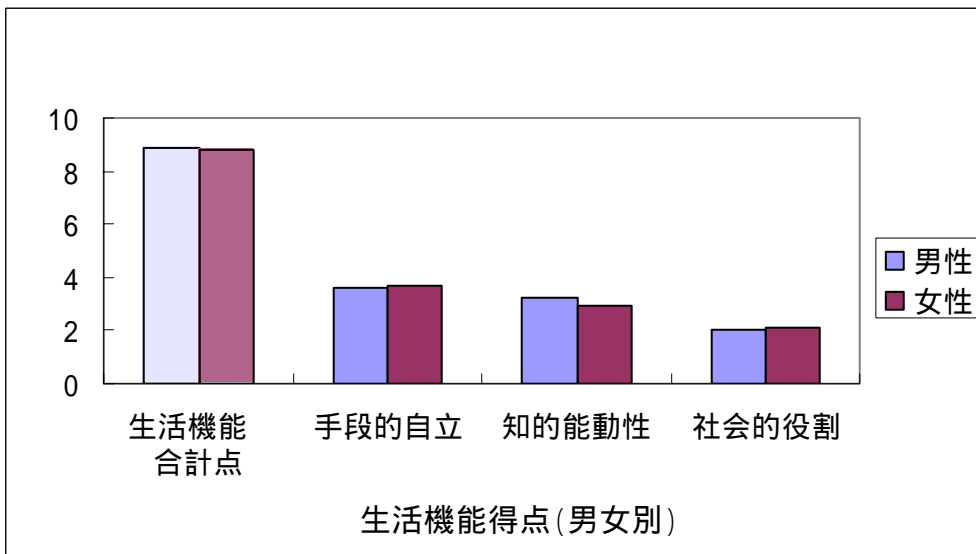
1) 生活機能アセスメント表の有効回答者数(13項目すべて回答していた者)は、195名(有効回答率86.2%)であった。

2) 生活機能得点の合計の平均は、8.79であり、そのうち、「手段的自立(IADL)」の平均は3.67、「知的能動性」は3.04、「社会的役割」は2.09であった。各得点について、男女による差は見られなかった。

#### 生活機能得点(男女別)

N = 195

	生活機能 合計点	手段的自立	知的能動性	社会的役割
男性	8.89	3.64	3.23	2.02
女性	8.76	3.68	2.96	2.12
全体	8.79	3.67	3.04	2.09

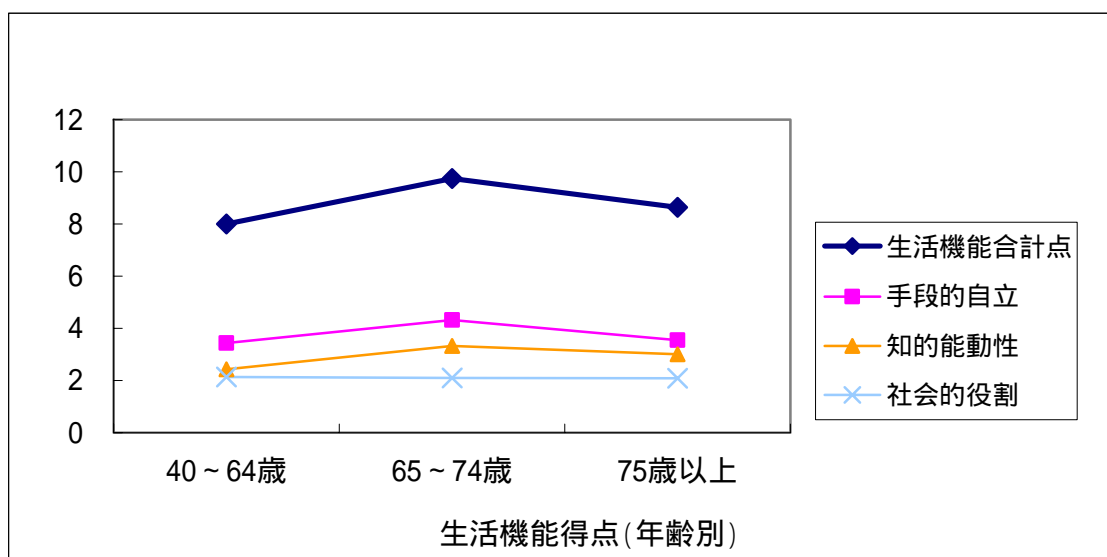


3) 年齢別では、65～74歳の得点が高い傾向が見られた。

### 生活機能得点(年齢別)

N = 195

	生活機能合計点	手段的自立	知的能動性	社会的役割
40～64歳	8.00	3.43	2.43	2.14
65～74歳	9.74	4.32	3.32	2.10
75歳以上	8.64	3.55	3.01	2.09



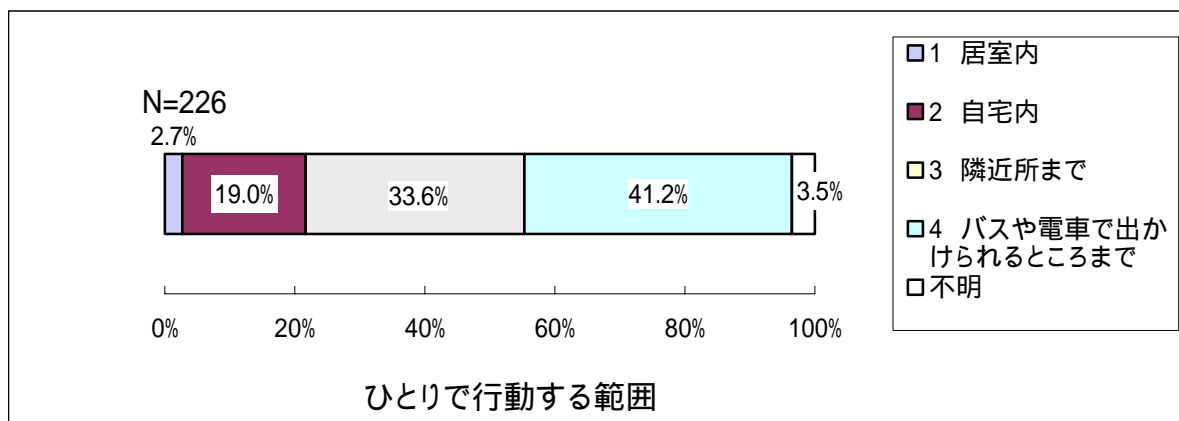
#### 4 . 行動範囲と活動状況

##### ( 1 ) ひとりで行動する範囲

「バスや電車で行かかれるところまで」が最も多く 93 名 ( 41.2% )、次いで「隣近所まで」が 76 名 ( 33.6% )、「自宅内」は 43 名 ( 19.0% )、「居室内」にとどまるのは 6 名 ( 2.7% ) であった。

##### 問 10(1) ひとりで行動する範囲

	(人)	N = 226
1 居室内	6	2.7%
2 自宅内	43	19.0%
3 隣近所まで	76	33.6%
4 バスや電車で行かかれるところまで	93	41.2%
不明	8	3.5%

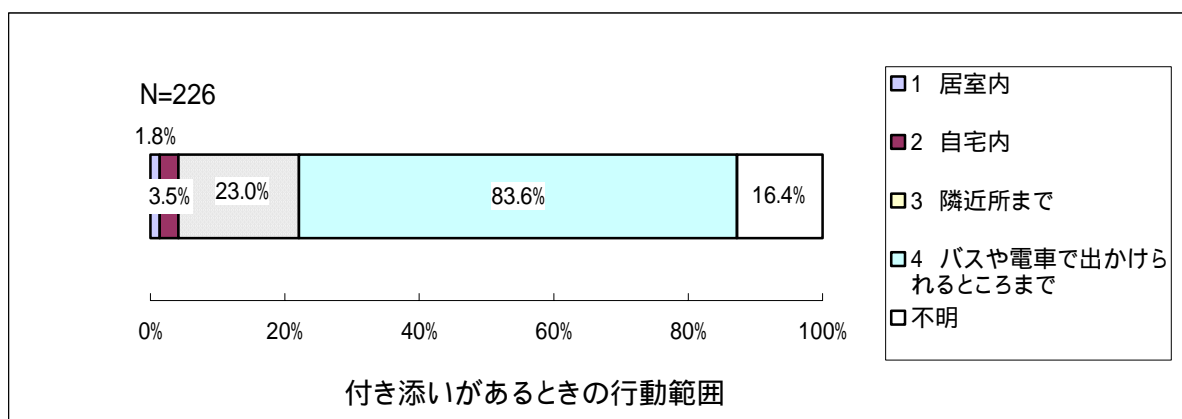


##### ( 2 ) 付き添いがあるときの行動範囲

「バスや電車で行かかれるところまで」が 189 名 ( 83.6% ) と大部分を占め、「隣近所まで」が 52 名 ( 23.0% )、「自宅内」は 8 名 ( 3.5% )、「居室内」は 4 名 ( 1.8% ) であった。

##### 問 10(2) 付き添いがあるときの行動範囲

	(人)	N = 226
1 居室内	4	1.8%
2 自宅内	8	3.5%
3 隣近所まで	52	23.0%
4 バスや電車で行かかれるところまで	189	83.6%
不明	37	16.4%

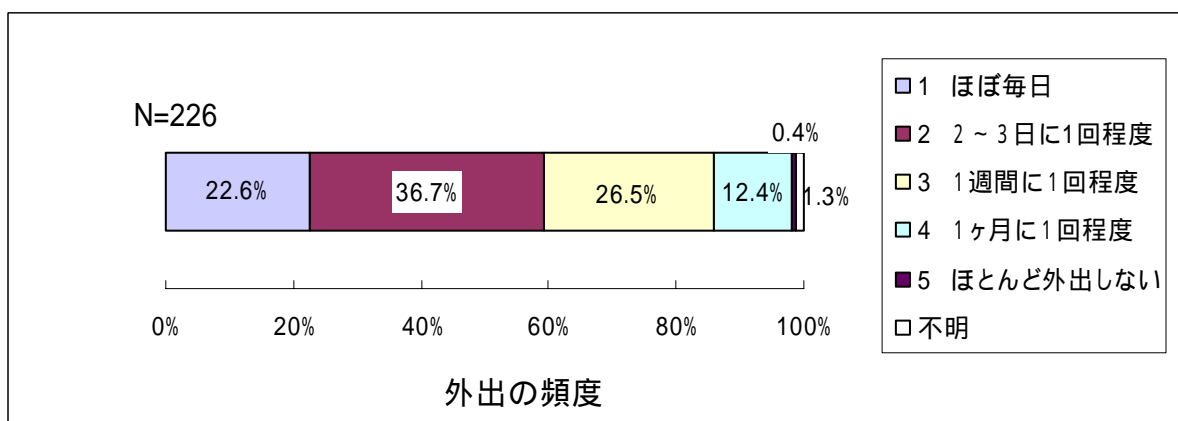


### (3) 外出の頻度

「2～3日に1回程度」が最も多く83名(36.7%)、次いで「1週間に1回程度」が、60名(26.5%)、「ほぼ毎日」が51名(22.6%)、「1ヶ月に1回程度」は28名(12.4%)であり、「ほとんど外出しない」のは1名(0.4%)のみであった。

#### 問11 外出の頻度

	(人)	N = 226
1 ほぼ毎日	51	22.6%
2 2～3日に1回程度	83	36.7%
3 1週間に1回程度	60	26.5%
4 1ヶ月に1回程度	28	12.4%
5 ほとんど外出しない	1	0.4%
不明	3	1.3%

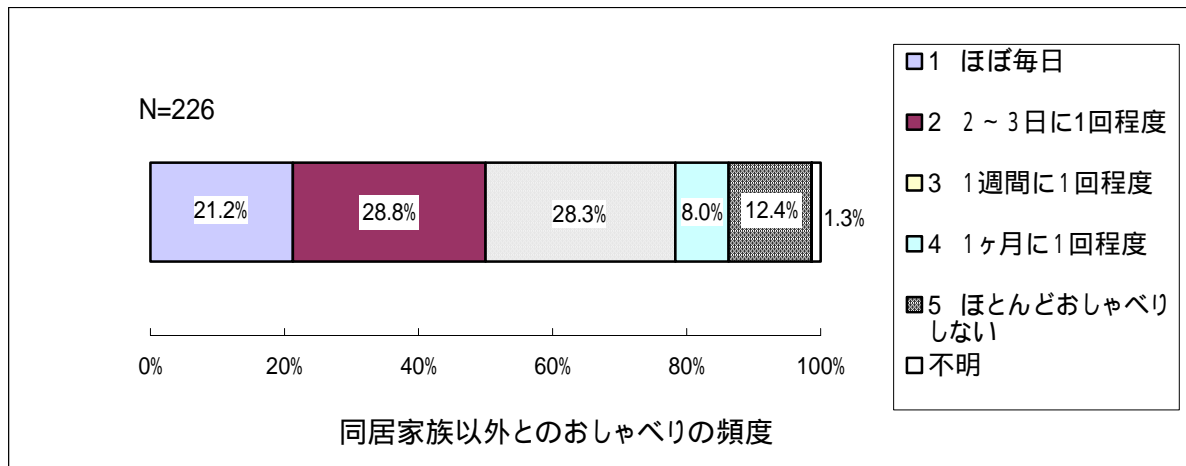


(4) 同居以外の人とのおしゃべりの頻度

「2～3日に1回程度」と「1週間に1回程度」がほぼ同数のそれぞれ65名(28.8%)、64名(28.3%)であり、「ほぼ毎日」が48名(21.2%)、「ほとんどおしゃべりしない」は28名(12.4%)、「1ヶ月に1回程度」は18名(8.0%)であった。

問12 (同居家族以外の人との)おしゃべりの頻度

	(人)	N = 226
1 ほぼ毎日	48	21.2%
2 2～3日に1回程度	65	28.8%
3 1週間に1回程度	64	28.3%
4 1ヶ月に1回程度	18	8.0%
5 ほとんどおしゃべりしない	28	12.4%
不明	3	1.3%



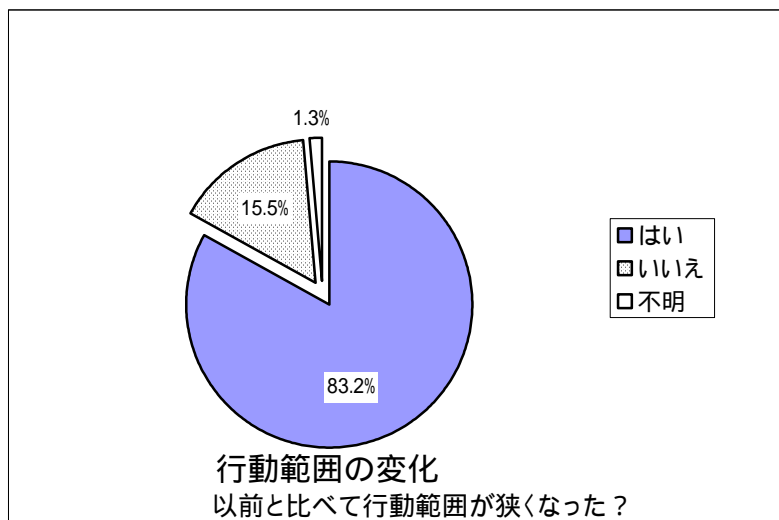
(5) 行動範囲の変化

「以前と比べて行動範囲が狭くなった」と感じている者は、188名(83.2%)であった。

その理由(複数回答)として多いものは、「すぐに疲れる」114名(60.6%)、「手・足が不自由である」80名(42.6%)、「身体的に不安がある(転倒してしまうなど)」73名(38.8%)、「痛みがある」69名(36.7%)、「移動のために補助具を必要とする」54名(28.7%)、「活動する気力がない」53名(28.2%)、「めまいやふらつきがある」47名(25.0%)などであった。

問 13(1) 以前と比べて行動範囲が狭くなった

	(人)	N = 226
はい	188	83.2%
いいえ	35	15.5%
不明	3	1.3%

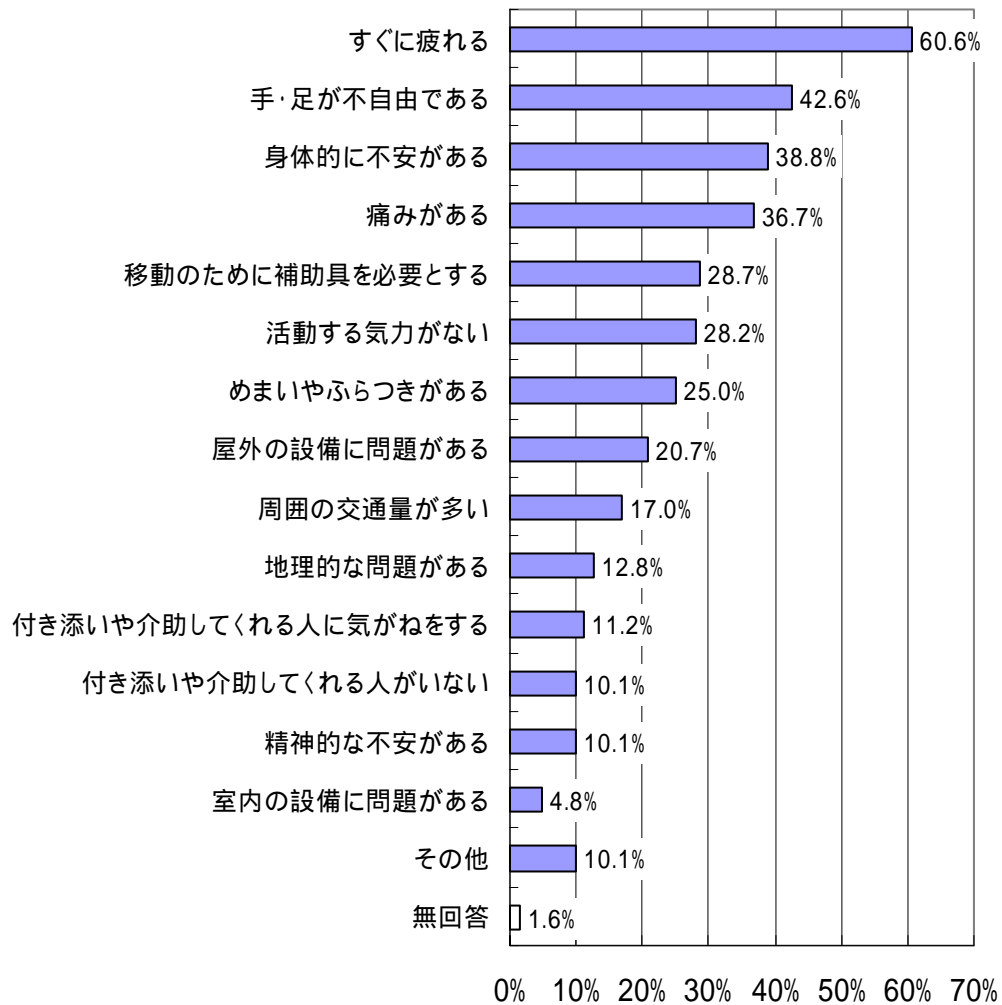


問 13(2) 行動範囲が狭くなった理由

(複数回答)

	(人)	N=188
すぐに疲れる	114	60.6%
手・足が不自由である	80	42.6%
身体的に不安がある	73	38.8%
痛みがある	69	36.7%
移動のために補助具を必要とする	54	28.7%
活動する気力がない	53	28.2%
めまいやふらつきがある	47	25.0%
屋外の設備に問題がある	39	20.7%
周囲の交通量が多い	32	17.0%
地理的な問題がある	24	12.8%
付き添いや介助してくれる人に気がねをする	21	11.2%
付き添いや介助してくれる人がいない	19	10.1%
精神的な不安がある	19	10.1%
室内の設備に問題がある	9	4.8%
その他	19	10.1%
無回答	3	1.6%

N=188



行動範囲が狭くなった理由 (複数回答)

## 5. 転倒のリスク

### (1) 転倒アセスメント

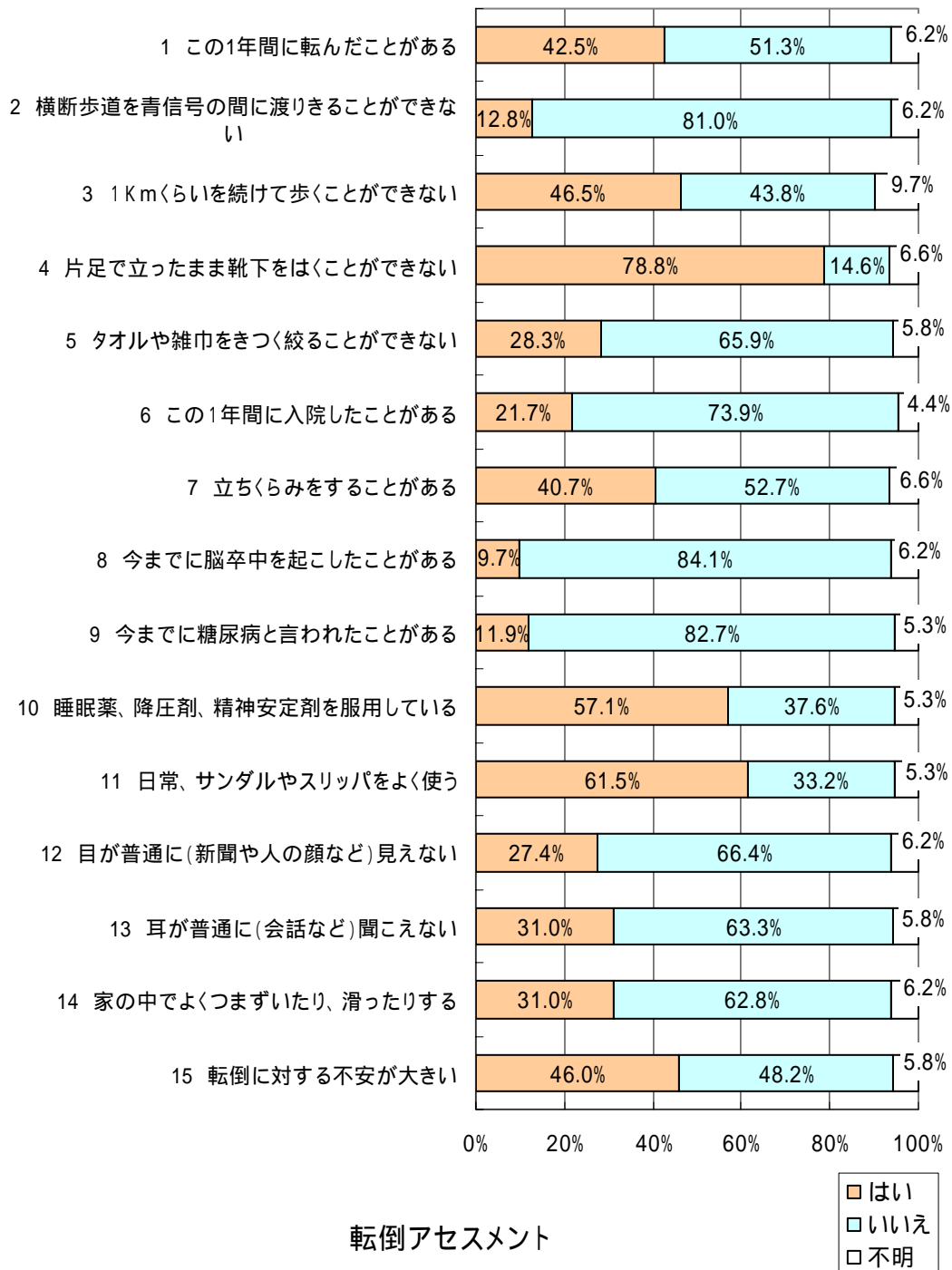
転倒アセスメント(東京都老人総合研究所)の各項目については、以下のとおりであった。

問 14 転倒アセスメント	N = 226		
	はい	いいえ	不明
1 この1年間に転んだことがある	96 ( 42.5% )	116 ( 51.3% )	14 ( 6.2% )
2 横断歩道を青信号の間に渡りきることができない	29 ( 12.8% )	183 ( 81.0% )	14 ( 6.2% )
3 1Kmくらいを続けて歩くことができない	105 ( 46.5% )	99 ( 43.8% )	22 ( 9.7% )
4 片足で立ったまま靴下をはくことができない	178 ( 78.8% )	33 ( 14.6% )	15 ( 6.6% )
5 タオルや雑巾をきつく絞ることができない	64 ( 28.3% )	149 ( 65.9% )	13 ( 5.8% )
6 この1年間に入院したことがある	49 ( 21.7% )	167 ( 73.9% )	10 ( 4.4% )
7 立ちくらみをすることがある	92 ( 40.7% )	119 ( 52.7% )	15 ( 6.6% )
8 今までに脳卒中を起こしたことがある	22 ( 9.7% )	190 ( 84.1% )	14 ( 6.2% )
9 今までに糖尿病と言われたことがある	27 ( 11.9% )	187 ( 82.7% )	12 ( 5.3% )
10 睡眠薬、降圧剤、精神安定剤を服用している	129 ( 57.1% )	85 ( 37.6% )	12 ( 5.3% )
11 日常、サンダルやスリッパをよく使う	139 ( 61.5% )	75 ( 33.2% )	12 ( 5.3% )
12 目は普通に(新聞や人の顔など)見えない	62 ( 27.4% )	150 ( 66.4% )	14 ( 6.2% )
13 耳は普通に(会話など)聞こえない	70 ( 31.0% )	143 ( 63.3% )	13 ( 5.8% )
14 家の中でよくつまずいたり、滑ったりする	70 ( 31.0% )	142 ( 62.8% )	14 ( 6.2% )
15 転倒に対する不安が大きい	104 ( 46.0% )	109 ( 48.2% )	13 ( 5.8% )

\* 各項目はすべてリスクを表すように統一した



N=226



1) 歩行能力

「1.この一年間に転倒した」者は104名(46.0%)、「2.横断歩道を青信号のうちに渡りきることができ」ない者29名(12.8%)、「3.1Kmくらい続けて歩くことができ」ない者105名(46.5%)であった。

2) バランス能力

「4.片足で立ったまま靴下をはくことができ」ない者178名(78.8%)であった。

3) 筋力との関連性

「5.水で濡れたタオルや雑巾をきつく絞ることができる」ものは64名(28.3%)であった。

4) 疾病による影響

「6.この1年間に入院した」49名(21.7%)、「7.立ちくらみをすることがある」92名(40.7%)、「8.今までに脳卒中を起こしたことがある」22名(9.7%)、「9.今までに糖尿病と呼ばれたことがある」27名(11.9%)であった。

5) 薬による影響

「10.睡眠薬、降圧剤、精神安定剤を服用している」者は129名(57.1%)であった。

6) 転倒の外的(環境的)要因

「11.日常サンダルやスリッパをよく使う」者は139名(61.5%)、「14.家の中でよくつまづいたり、すべったりする」は70名(31.0%)であった。

7) 視力

「12.目が普通に(新聞や人の顔など)見え」ない者62名(27.4%)、「13.耳が普通に(会話など)聞こえ」ない者70名(31.0%)であった。

8) 転倒への不安

「15.転倒に関する不安が大きい、あるいは転倒が怖くて外出を控える」は104名(46.0%)であった。

## 6 . 食生活と栄養

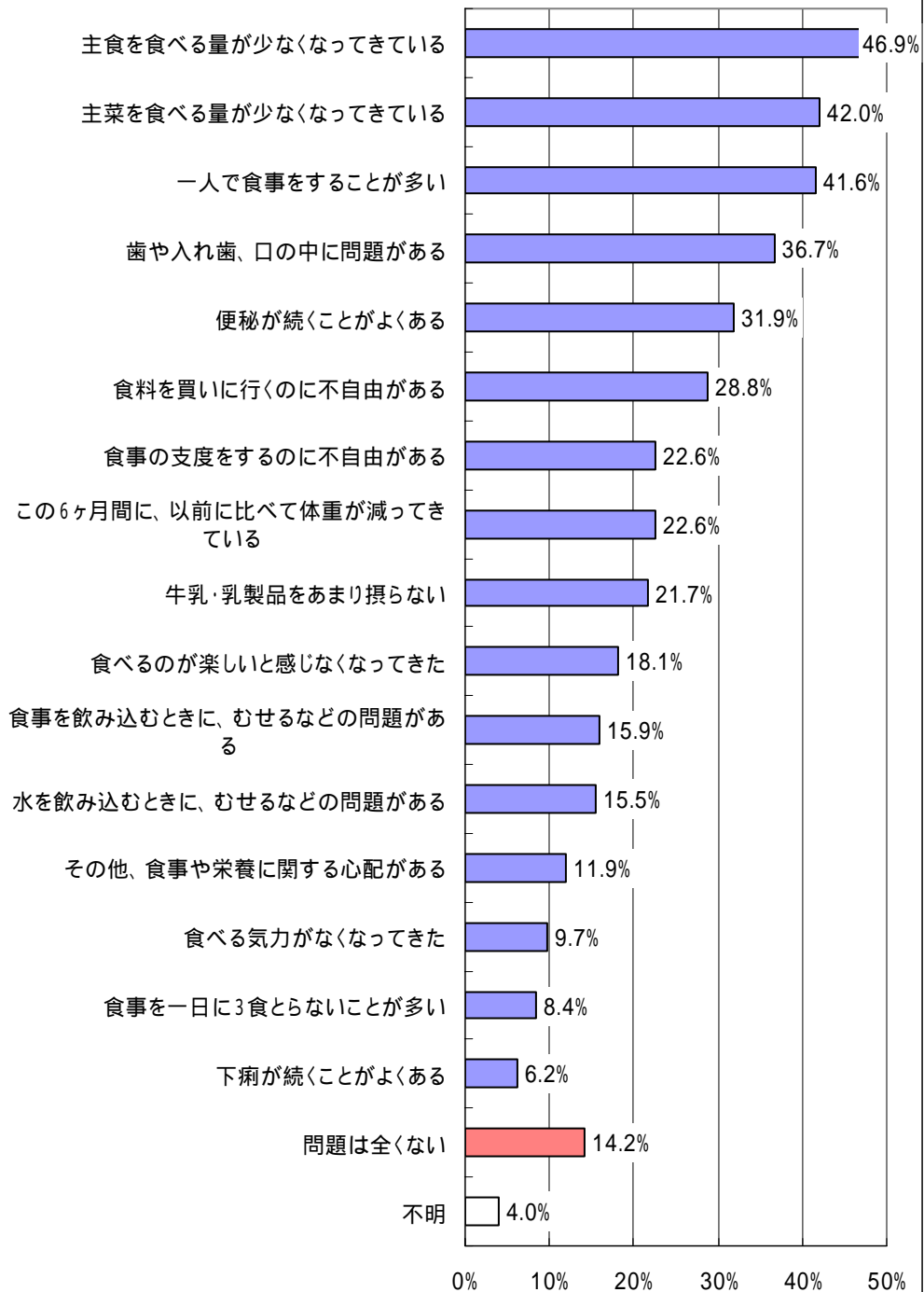
### ( 1 ) 食生活と栄養についての問題

多いものは、「主食を食べる量が少なくなっている」106名(46.9%)、「主  
 菜を食べる量が少なくなっている」95名(42.0%)、「一人で食事をするこ  
 とが多い」94名(41.6%)、「歯や入れ歯、口の中に問題がある」83名(36.7%)、「便  
 秘が続くことがよくある」72名(31.9%)、「食料を買いに行くのに不自由がある」  
 65名(28.8%)などであった。

#### 問 15 食生活と栄養 (複数回答)

	(人)	N = 226
主食を食べる量が少なくなっている	106	46.9%
主菜を食べる量が少なくなっている	95	42.0%
一人で食事をする人が多い	94	41.6%
歯や入れ歯、口の中に問題がある	83	36.7%
便秘が続くことがよくある	72	31.9%
食料を買いに行くのに不自由がある	65	28.8%
この6ヶ月間に、以前に比べて体重が減ってきている	51	22.6%
食事の支度をするのに不自由がある	51	22.6%
牛乳・乳製品をあまり摂らない	49	21.7%
食べるのが楽しいと感じなくなってきた	41	18.1%
食事を飲み込むときに、むせるなどの問題がある	36	15.9%
水を飲み込むときに、むせるなどの問題がある	35	15.5%
その他、食事や栄養に関する心配がある	27	11.9%
食べる気力がなくなってきた	22	9.7%
食事を一日に3食とらないことが多い	19	8.4%
下痢が続くことがよくある	14	6.2%
問題は全くない	32	14.2%
不明	9	4.0%

N=226



食生活と栄養

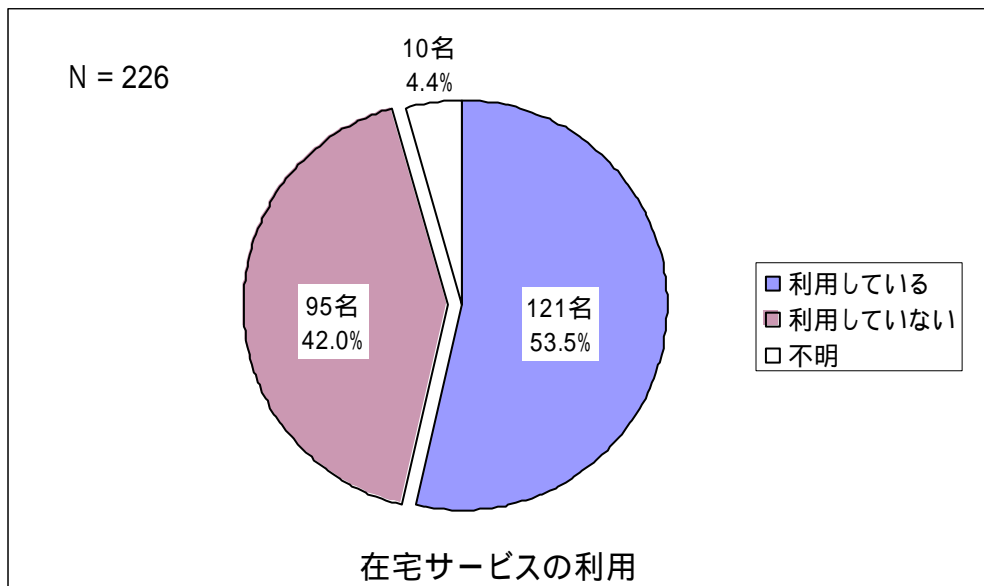
## 7. 在宅サービス

### (1) 在宅サービスの利用

在宅サービスを利用しているのは、121名(53.5%)であった。

#### 問 16(1)在宅サービスを利用している

	(人)	N = 226
利用している	121	53.5%
利用していない	95	42.0%
不明	10	4.4%



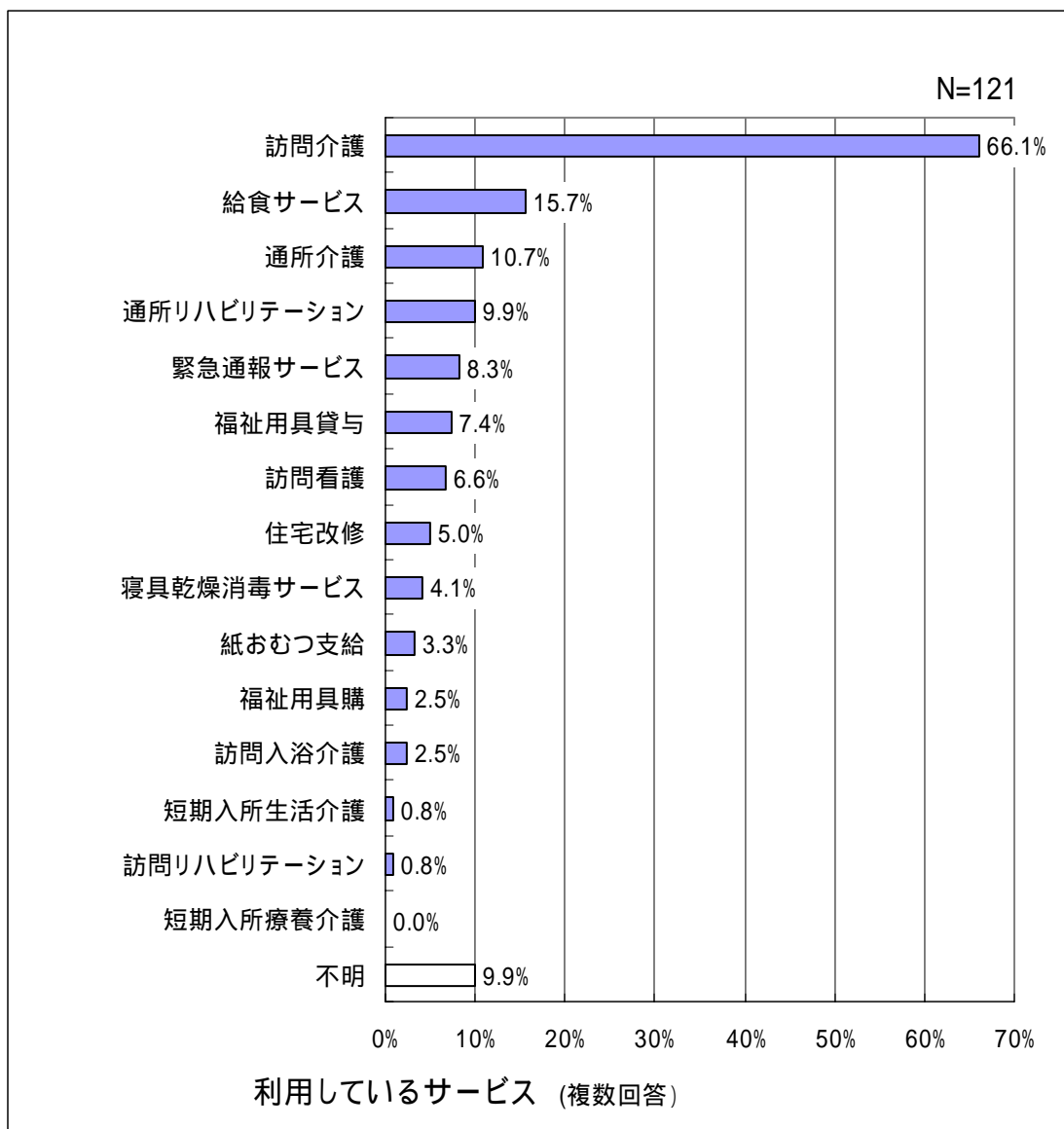
(2) 利用しているサービス

「訪問介護」が最も多く 80 名、「給食サービス」19 名、「通所介護」13 名、「通所リハビリテーション」12 名、「緊急通報サービス」10 名などであった。

問 16(2) 利用しているサービス (複数回答)

N = 121

訪問介護	80	66.1%
給食サービス	19	15.7%
通所介護	13	10.7%
通所リハビリテーション	12	9.9%
緊急通報サービス	10	8.3%
福祉用具貸与	9	7.4%
訪問看護	8	6.6%
住宅改修	6	5.0%
寝具乾燥消毒サービス	5	4.1%
紙おむつ支給	4	3.3%
訪問入浴介護	3	2.5%
福祉用具購	3	2.5%
訪問リハビリテーション	1	0.8%
短期入所生活介護	1	0.8%
短期入所療養介護	0	0.0%
不明	12	9.9%



## 8 . 今後知りたい情報

### ( 1 ) 生活に関して今後知りたい情報

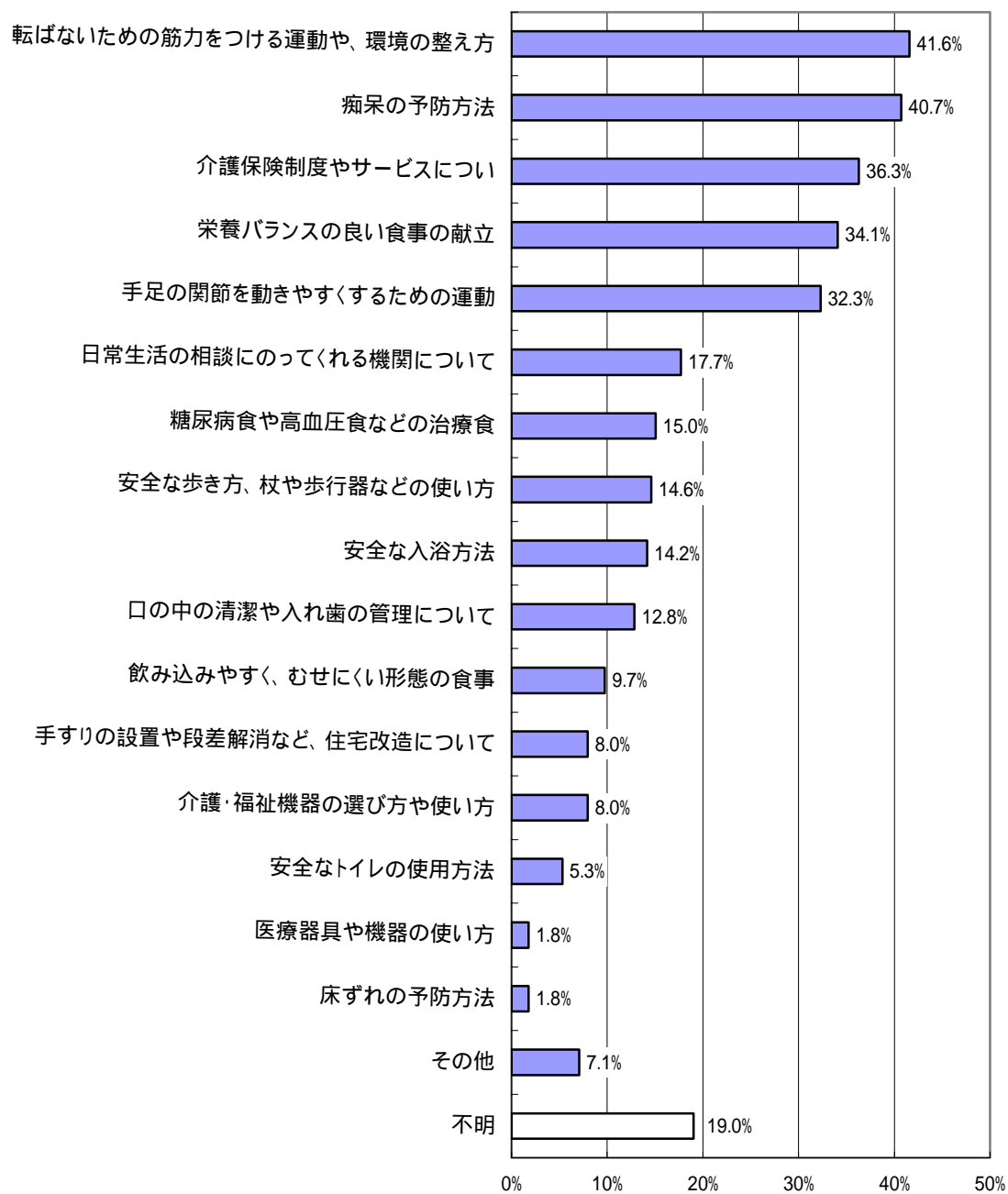
多いものは、「転ばないための筋力をつける運動や、環境の整え方」94名(41.6%)、「痴呆の予防方法」92名(40.7%)、「介護保険制度やサービスについて」82名(36.3%)、「栄養バランスのよい献立」77名(34.1%)、「手足の関節を動きやすくするための運動」73名(32.3%)であった。

#### 問17 今後知りたい情報(本人) (複数回答5つまで)

	(人)	N = 226
転ばないための筋力をつける運動や、環境の整え方	94	41.6%
痴呆の予防方法	92	40.7%
介護保険制度やサービスについて	82	36.3%
栄養バランスの良い食事の献立	77	34.1%
手足の関節を動きやすくするための運動	73	32.3%
日常生活の相談にのってくれる機関について	40	17.7%
糖尿病食や高血圧食などの治療食	34	15.0%
安全な歩き方、杖や歩行器などの使い方	33	14.6%
安全な入浴方法	32	14.2%
口の中の清潔や入れ歯の管理について	29	12.8%
飲み込みやすく、むせにくい形態の食事	22	9.7%
介護・福祉機器の選び方や使い方	18	8.0%
手すりの設置や段差解消など、住宅改造について	18	8.0%
安全なトイレの使用方法	12	5.3%
床ずれの予防方法	4	1.8%
医療器具や機器の使い方	4	1.8%
その他	16	7.1%
不明	43	19.0%



N=226



今後知りたい情報(本人) (複数回答5つまで)

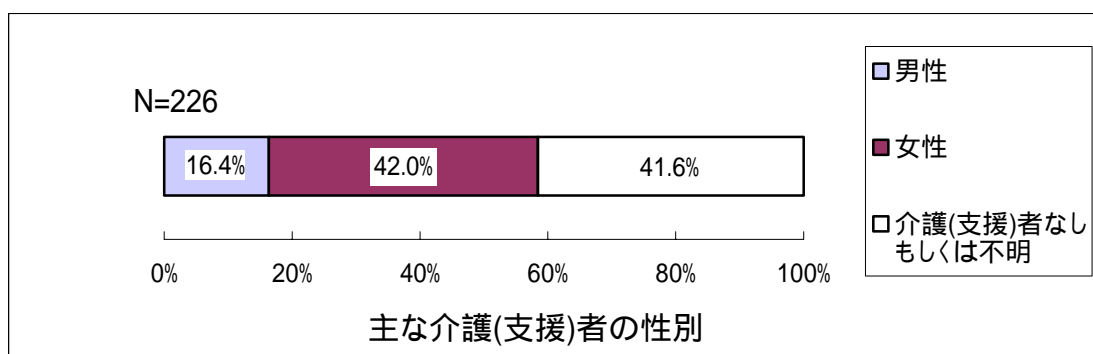
## 9. 主な介護（支援）者について

### (1) 性別

「女性」95名（42.0%）、「男性」37名（16.4%）であり、「介護（支援）者がいない、もしくは不明」が94件（41.6%）であった。

#### 問 18 介護(支援)者の性別

	(人)	N = 226
男性	37	16.4%
女性	95	42.0%
介護(支援)者なし もしくは不明	94	41.6%

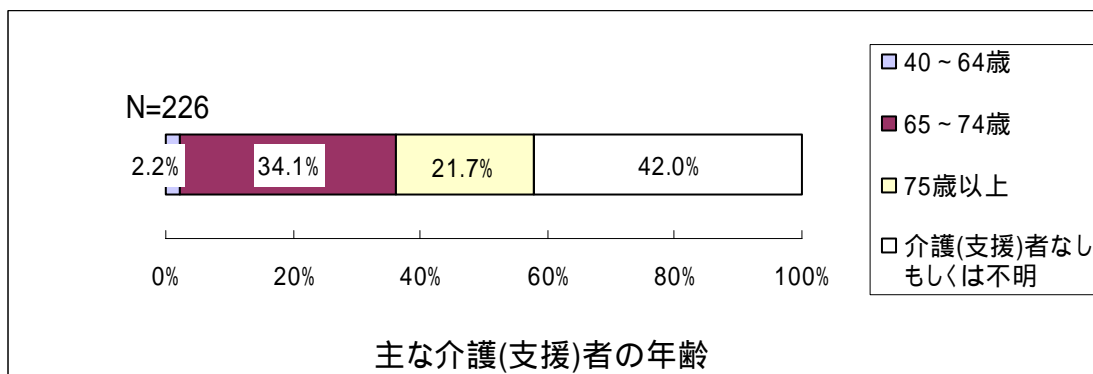


### (2) 年齢

「65～74歳」が多く77名（34.1%）、「75歳以上」が49名（21.7%）、「40～64歳」は5名（2.2%）であった。

#### 問 19 介護者の年齢

	(人)	N = 226
40～64歳	5	2.2%
65～74歳	77	34.1%
75歳以上	49	21.7%
介護(支援)者なし もしくは不明	95	42.0%

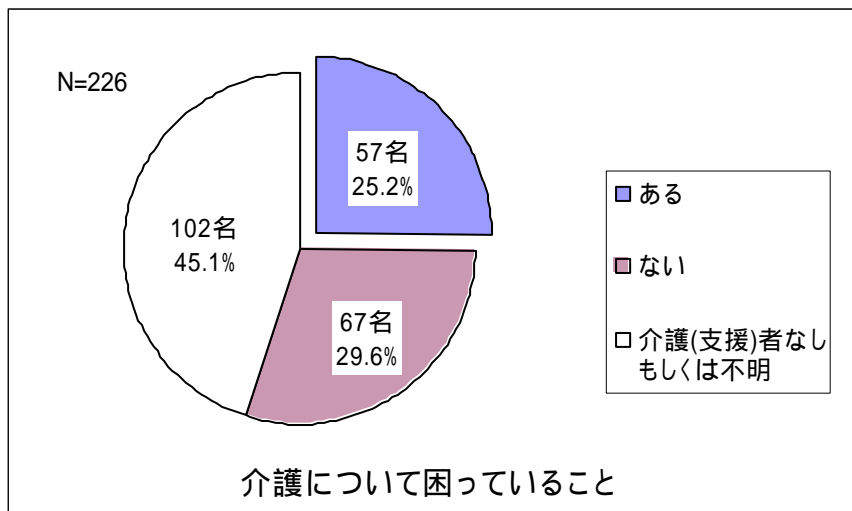


(3) 介護についての困りごと

「介護について現在困っていることがある」者は 57 名 (25.2%) であり、その内容として多いものは「精神的に不安がある」40 名、「要支援者をひとりにしておくのが心配、外出できない」が 27 名、「身体的に負担がある」が 23 名などであった。

問 20(1) 現在介護について困っていること

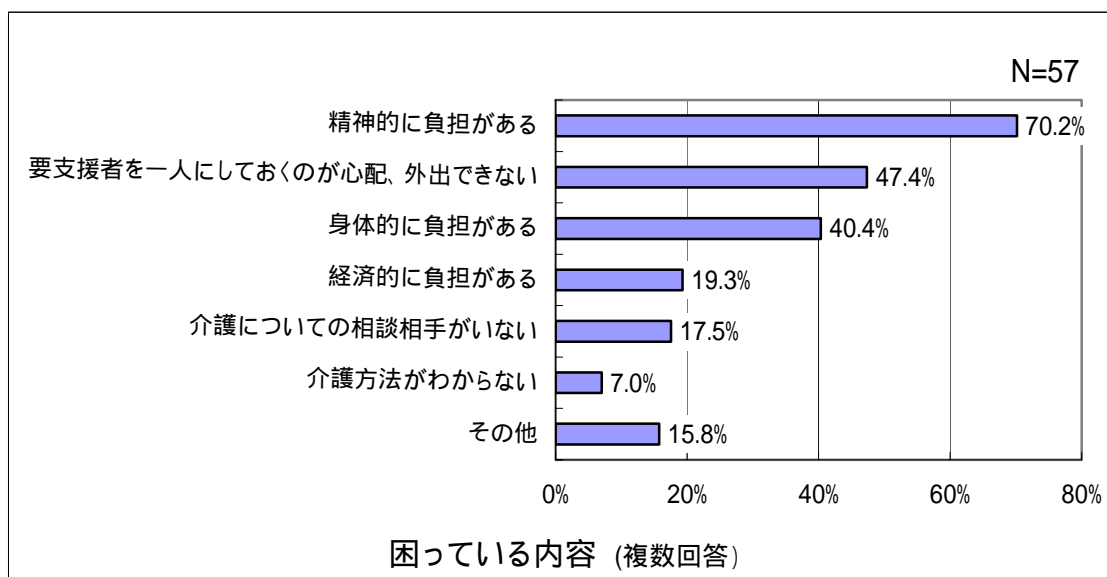
	(人)	N = 226
ある	57	25.2%
ない	67	29.6%
介護(支援)者なし もしくは不明	102	45.1%



問 20(2) 困っている内容

(複数回答)

	(人)	N = 57
精神的に負担がある	40	70.2%
要支援者を一人にしておくのが心配、外出できない	27	47.4%
身体的に負担がある	23	40.4%
経済的に負担がある	11	19.3%
介護についての相談相手がいない	10	17.5%
介護方法がわからない	4	7.0%
その他	9	15.8%

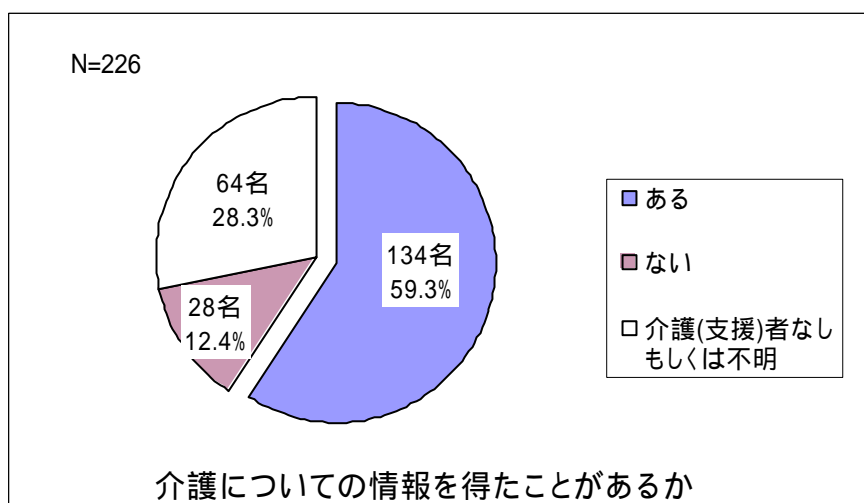


(4) 介護に関する情報を得る手段

「介護に関する情報を得たことがある」者は134名(59.3%)であった。その手段(複数回答)は「定期的なサービスを受けている専門職に相談した」55名、「本・雑誌・新聞を読んだ」55名、「テレビ・ラジオを見た、あるいは聞いた」52名、「専門機関に出向いて相談した」47名などであり、「インターネットを利用した」のは3名であった。

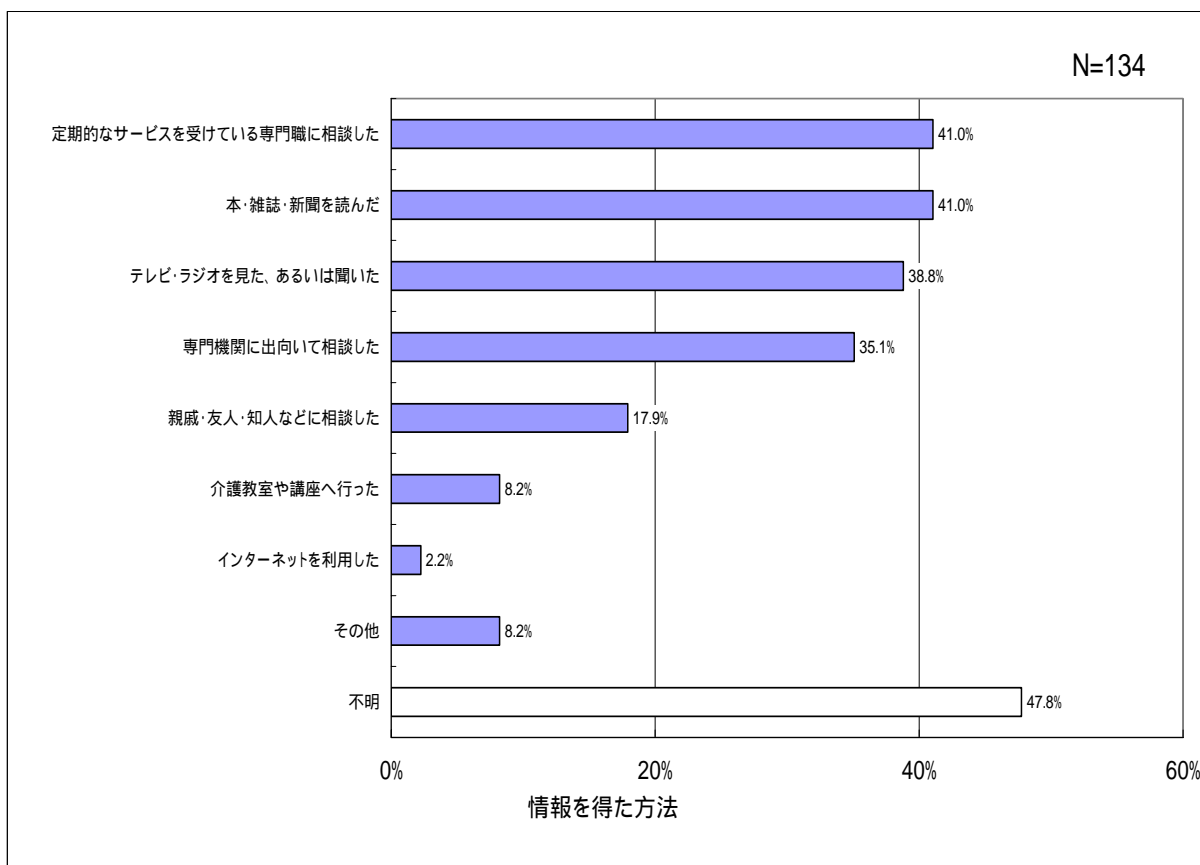
問 21(1) 介護に関する情報を得たことがある

	(人)	N = 226
ある	134	59.3%
ない	28	12.4%
介護(支援)者なし もしくは不明	64	28.3%



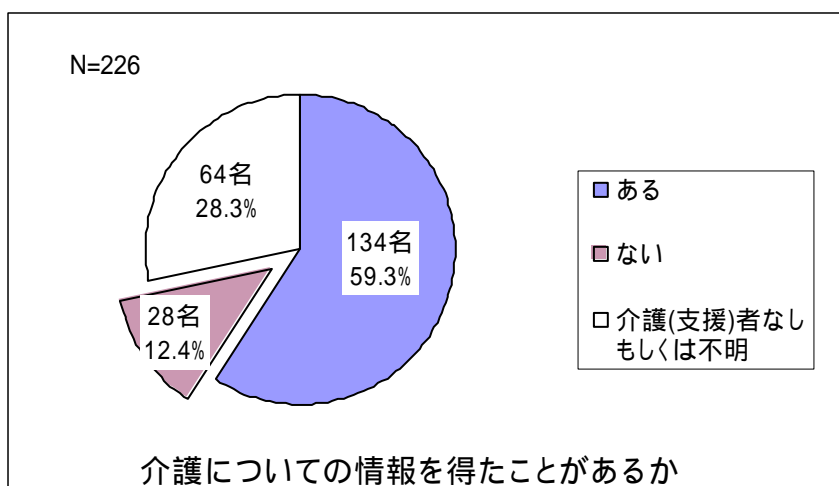
問 21(2) 情報を得た方法 (複数回答)

	(人)	N = 134
本・雑誌・新聞を読んだ	55	41.0%
定期的なサービスを受けている専門職に相談した	55	41.0%
テレビ・ラジオを見た、あるいは聞いた	52	38.8%
専門機関に出向いて相談した	47	35.1%
親戚・友人・知人などに相談した	24	17.9%
介護教室や講座へ行った	11	8.2%
インターネットを利用した	3	2.2%
その他	11	8.2%
不明	64	47.8%



(5) 介護に関する情報を得たことがない理由

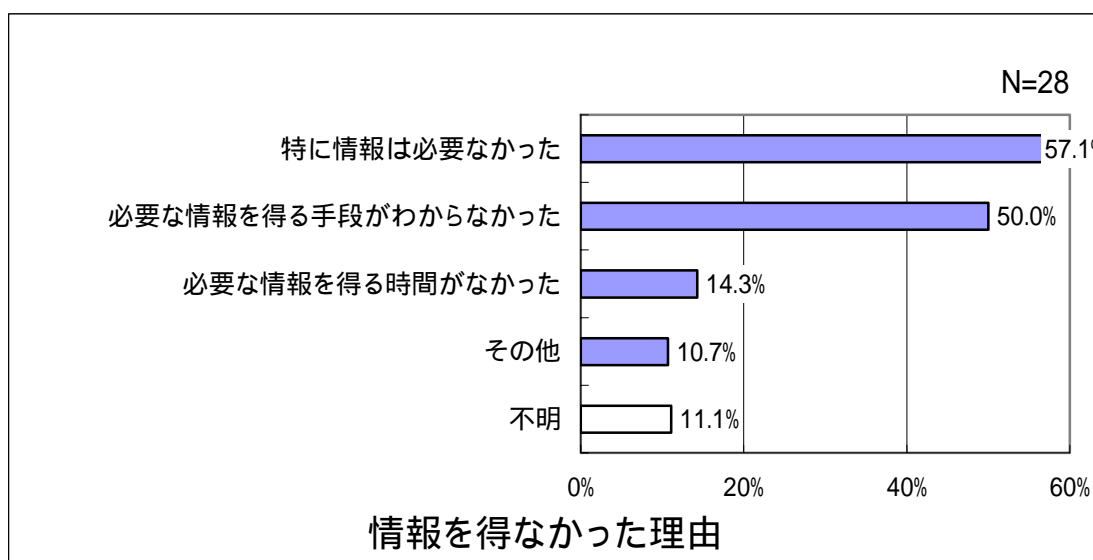
「介護に関する情報を得たことない」者は 28 名 (12.4%) であった。その理由 (複数回答) は「特に情報は必要なかった」者が 16 名あり、「必要な情報を得る手段がわからなかった」14 名、「必要な情報を得る時間がなかった」4 名であった。



**問 21(3) 情報を得なかった理由**

(複数回答)

	(人)	N = 28
特に情報は必要なかった	16	57.1%
必要な情報を得る手段がわからなかった	14	50.0%
必要な情報を得る時間がなかった	4	14.3%
その他	3	10.7%
不明	3	11.1%



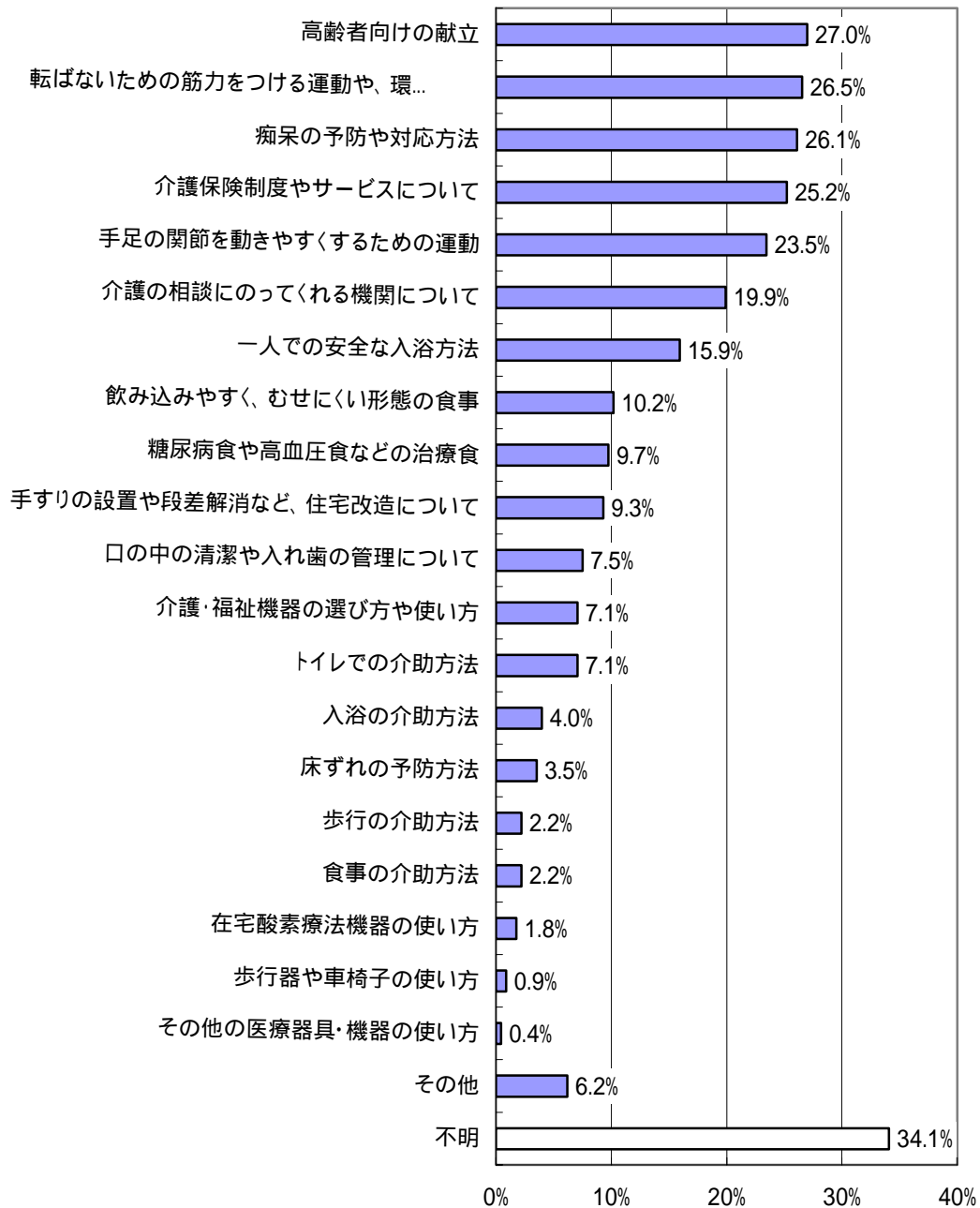
(6) 介護に関して今後知りたい情報

介護者が今後知りたい情報(複数回答)で多いものは、「高齢者向けの献立」61名(27%)、「転ばないための筋力をつける運動や環境の整え方」60名(26.5%)、「痴呆の予防や対応方法」59名(26.1%)、「介護保険制度やサービスについて」57名(25.2%)、「手足の関節を動かしやすいするための運動」53名(23.5%)などであった。

問22 介護(支援)者が今後知りたい情報 (複数回答5つまで)

	(人)	N = 226
高齢者向けの献立	61	27.0%
転ばないための筋力をつける運動や、環境の整え方	60	26.5%
痴呆の予防や対応方法	59	26.1%
介護保険制度やサービスについて	57	25.2%
手足の関節を動きやすくするための運動	53	23.5%
介護の相談にのってくれる機関について	45	19.9%
一人での安全な入浴方法	36	15.9%
飲み込みやすく、むせにくい形態の食事	23	10.2%
糖尿病食や高血圧食などの治療食	22	9.7%
手すりの設置や段差解消など、住宅改造について	21	9.3%
口の中の清潔や入れ歯の管理について	17	7.5%
トイレでの介助方法	16	7.1%
介護・福祉機器の選び方や使い方	16	7.1%
入浴の介助方法	9	4.0%
床ずれの予防方法	8	3.5%
食事の介助方法	5	2.2%
歩行の介助方法	5	2.2%
在宅酸素療法機器の使い方	4	1.8%
歩行器や車椅子の使い方	2	0.9%
その他の医療器具・機器の使い方	1	0.4%
その他	14	6.2%
介護(支援)者なし、もしくは不明	77	34.1%

N=226



今後知りたい情報(介護者) (複数回答5つまで)



## 10. 自由回答

要支援者の日常生活に関する情報、あるいは介護情報についての意見

### <情報に関して>

情報がほとんどない。Tel もほとんどない。面接などもない。もう少し親切な情報がほしい。書類上のことは十分かもしれないが実際にはほとんど何にもない。予算はどこで使われているのでしょうか。

介護保険適用サービス例や日常生活相談例など時々知らせていただくとうれしいです。

高齢者の身近で手軽な生きがい情報

市が管轄する介護保険に関する諸施策などの情報も知らせてもらいたい

市民の家、公民館など的高齢者向けもしくは高齢者でも参加できる教室など紹介してほしい(特に七十歳以上の方の教室参加できるところ)。有料でもいいので、教室に参加したいと話しています。近くの市民の家に見に行ったのですが、いつもあいているということがないのでどのような「会」があるのか情報が入ればいと存じます。

1 要支援になっても利用する場所とか機関が多すぎてよくわかりません。もう少し具体的に利用の仕方を教えてください。2 (現在はよいが、)病気で寝込んだとき心配ですね。3 年とって在宅介護していただけるのでしょうか? 現在医者の方の往診はあるのでしょうか? わからないこと多く不安です。年を取ってしまして、私はインターネットで情報を得ることはできません。書類で知りたいです。よろしく。

(個人)情報は表に出ていやです。

どんな介護サービスがあるのかわかりにくい。

中一人でいるときに、リハビリ体操を進んで(一人だと面倒くさがってしまうので)できるようなe-ヘルスケアプログラムとかファミリーケアプログラムを利用できるといいと思います。

認定を受けている独居に対して生活支援の情報が本人に直接届くようにしてほしい。一人暮らしの中で栄養のバランスと一人前の経済的な献立の情報があれば教えてほしい。病気のとき患者の立場にたって話を聞いてくれる先生を増やしてほしい。

### <介護保険等の制度について>

介護度は医者とマネージャーで市担当課で決定するのだと思いますが? 支援、介護1~5 どころへんがこの範囲に入ることがわからないことがある

ヘルパー利用料3%の認定を受けて大助かりです。できるだけ長くこの制度が続くように切望いたします、窓ガラス拭きや流し台下の収納場所など日常生活にかかわりの大きいところの掃除は、日常無理であればつき一回または二月に一回でもヘルパーの仕事に認めていただくようお願いいたします。

要支援、要介護者として支援や介護の階級別点数の計算の仕方が不明であります。公開しないものでしょうか。

これだけ要介護状態の人間をいつまでも要支援にしておくのはおかしくないか？  
介護保険制度は大変ありがたく、感謝しています。ケアマネージャーの方のご苦労は大変なものだと思います。

日ごろお世話になりまことにありがとうございます。この制度を利用させていただき大変助かっております。

#### <介護サービス等について>

いつも同じ人に介護にきていただけたらと思います。老人は、たびたび人が変わることがよく理解しにくいとの利用者の周りの人は言葉にしています。たとえば、掃除を頼んでも慣れたらやっと思つと、また違う人がくるとかとのことです。介護は本人も安心させてあげられることが一番なのではと思いますが...

医療通院のため外出の際、乗り物に不便あり。タクシーの利用権を交付してもらえよう改正してください。給食サービスも昼のみでなく夜食も供食してほしい。

介護ではガラス拭き、庭掃除はしていただけませんか。私も八十五歳なので一月に一回くらい庭とかガラス拭きなどしていただきたいです。また、買い物も近くのスーパーのみとのことですが、デパートなどの魚、肉の好みの品お買い物にいただきたいです。勝手ですが、なにぶんよろしくお願いします。

一人暮らしで八十八になって自分の家の何とか間に合うお掃除がとて普通の重くてできなくなるのをちょっと助けてもらうだけでもまた元気が出てくるのと若い人が来てくれるのはうれしいです。ちょっと庭を刷いてもらいたくても外はだめなのはとても不便。十分でいいから助けてもらえると一本ですむのに困ります。

現在ヘルパーには預貯金に関することは依頼してはいけないそうですが、足が不自由で自分で金融機関に出向くことができなくて身近に預貯金の払い戻しなどを頼める人がいないとき、ヘルパーにそれを頼むことができないのは非常に心細いです。そういう時それを助けていただく方法を考案してください。

独居の人の昼間の生活支援として昼間の時間帯だけ保育園児などとの共同生活など意義ある活動支援を望む。

もっと多くの老人が集まって遊べるような場所を造ってほしいです。

郵便局でお金の管理をしています。郵便局員のほうが自宅に出向いてくれるサービスができれば、と希望します。

自立の限界を超える状況になった場合身上処置に不安があります。(特養ホームは絶対数が不足しているから)

介護を受けているものに保険料を払わずによりよい支援をお願いいたします。

#### <介護者の疑問・不安等>

現在のところは、寝たきりではないのですが、一人にして泊まりで出かけたりはできません。・・・今後、身体的なことより痴呆のほうが心配です。精神科に入っていないので、どのくらいの進んでいるのかわかりません。専門医に言ったほうがよいのでしょうか。

アルツハイマーについてはどこまで保険で見えていただけるのか心配でどうすること

もできません。もっと細部にわたりいい方法を教えていただきたいです。  
一人にすることが心配なので旅行で外泊とかは一切しませんし外出も短時間で用を済まして帰宅するというようにいつも心がけている次第です。

<その他>

1 駅にエレベータが設置されたがほとんどの人が買い物客や通勤通学者が利用して時間帯によっては満員状態です。・・・われわれ障害者が楽に乗れるようにしてほしい。2 コンビニの前の歩道についても車がとまっていて非常に危険です。警察に言っても向こうの解決になっていないし・・・何らかの指導・処分をしてほしい。事故がおきて怪我をしたなら市役所側で責任をとるならそのような条例を作ってください。

私は介護をするものですが、実は介護してもらうものも、感謝の気持ちが必要だと思えます。面倒を見ている人には何の感謝もなく、たまにくる子供やその他の人にいろいろ話をするのですが、家のものには会話をしようとも思っていない、何か一言注意するとケンカになります。その日とその人によって違いがあると思えますが、社会的に昔と違って福祉のほうも大変よくなって親切にもらえるので、少し甘えがあるようにも思えます。介護をしている人でなければわからないことがいっぱいです。疲れがひどく毎日がいやになることがあるとっている人が近所にも多くいます。

行き届いたご親切な気配りには感謝しております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

介護保険で要支援の認定をいただいて、心の支えと感謝しておりますが、できうる限り、現状の生活を二人で支えあっていきますので、今後ともご支援を賜りたい(家内も要支援の判定を受けております)。

先日ケアセンターの方から電話があり、身体の具合など聞いてくれまして本当に助かります。また、手すりなどつけていただき、助かりました。これからもよろしく。現在は私自身自分のできることだけ一生懸命やっていますが、先のことを考えるとやっぱり不安になります。だんだん福祉も後退していくように思われることもありますので、高齢者が安心して暮らせる世の中になるよう願っております。どうぞよろしく願いいたします。

私どものように一人暮らしのものは介護サービスを受けさせていただいてありがたく思っています。

現在 養護ホームにお世話になっておりますが、毎日の生活が楽しく過ごせることが本当にうれしくてなりません。・・・藤沢市でも 養護ホームのような入所者の気持ちの上にとって、運営するホームを新しく開拓することを切に要望いたします。

以上

## . 調 査 用 紙

## 藤沢市要支援認定者の生活と介護に関するアンケート調査

### ご協力をお願い

藤沢市では、国の「e-Japan 重点計画-2002」に基づき介護福祉分野でIT技術を活用した「e-ケアタウンプロジェクト」を今年度から実施します。

このプロジェクトは、誰もが安心して生活していける、看護と介護のゆきわたるまちをめざして、藤沢市と慶應義塾大学などが協同してすすめるものです。

そこで、介護保険で要支援認定を受けられた方を対象に、ご本人の日常の活動状況と、ご本人やご家族が日常生活や介護についてどのような情報を必要としているかを把握するためアンケート調査を実施することといたしました。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただきご協力くださいますようお願いいたします。

平成 14 年 11 月

藤沢市長 山本捷雄

#### ● アンケートの方法等

1. アンケート調査の対象者は、平成 14 年 10 月 31 日現在、介護保険制度で「要支援」の認定を受けている方の中から無作為に選ばせていただいた 300 人の方々と、その家族の方々です。
2. このアンケートは、ご本人とご家族の自由意志にもとづき無記名で行われるものです。
3. アンケートの分析結果は、報告書や学会・論文、インターネット上で公表することもあります。統計的に処理をするため、個人的な情報が公開されることはありません。

## アンケートを記入される時の注意事項

1. 1ページ目から7ページ目までに回答していただく方は、宛名のご本人ですが、ご本人がお答えになれない場合には、ご本人の状況がわかるご家族の方が記入されてもかまいません。8ページ目以降は、主に宛名ご本人の方を介護（支援）しているご家族の方が回答してください。
2. お答えは、あてはまる回答の番号または空欄に、○印を指定された数だけお付けください。また、「その他（ ）」と回答された場合には、（ ）の中にその内容をご記入ください。
3. 1ページ目から最後まで、質問順にお答えください。また、質問項目ごとの指示に注意してお答えください。
4. ご記入いただきましたアンケート票は、誠に恐縮ですが、12月6日（金）までに同封の返信用封筒に入れて、ポストに投函してください。

★ この調査についてご不明の点がありましたら、下記へお問い合わせください。

藤沢市役所福祉健康部介護保険課 TEL 50-3527（直通）

---

ここからアンケートが始まります。

記入日現在の状況でお答えください。

あなたご自身のことについて

\*質問中の「あなた」とは、宛名ご本人を指します。

問1. アンケートにお答えになる方は。（1つだけ○印）

1. 本人が記入
2. 本人が答え、家族が記入
3. 家族（本人の意見を確認することが困難な場合など）

問2. あなたはどこで生活していますか。（1つだけ○印）

1. 自宅
2. ケアハウスまたはグループホーム
3. その他（具体的に： ）

問3. あなたの性別は。(1つだけ○印)

1. 男                      2. 女

問4. あなたの年齢は。(1つだけ○印)

1. 40～64歳              2. 65～74歳              3. 75歳以上

問5. あなたの家族構成は。(1つだけ○印)

1. ひとり暮らし  
2. 夫婦のみの世帯で、ともに65歳以上  
3. その他の65歳以上のみの世帯  
4. 夫婦のみの世帯で、どちらか一方が65歳未満  
5. 65歳以上と18歳未満のみの世帯  
6. 以上どれにもあてはまらない世帯

問6. あなたの居室のある階数は。(1つだけ○印)

1. 1階                      2. 2階                      3. 3階以上

問7. あなたの家族で主にあなたを介護(支援)される方は。(1つだけ○印)

1. 配偶者(夫または妻)                      2. 同居している子供  
3. 同居の子供の配偶者                      4. 別居している子供  
5. 別居の子供の配偶者                      6. その他の同居親族  
7. その他の別居親族                      8. その他(具体的に: )  
9. 家族以外に介護(支援)者がいる(具体的に: )

問8. あなたの周囲の状況は。(いくつでも○印)

1. 昼間はひとりで、夜間のみ家族などがいる  
2. ほぼ1日中家族といる  
3. ほぼ1日中家族以外の人といる  
4. 近所に親族、親しい知人がいる  
5. 近所に親族、親しい知人はいない  
6. その他(具体的に: )

**あなたの普段の活動について**

**問9. あなたの活動の様子についてお答えください。**

(\*それぞれの項目について、 1. はい 2. いいえ のどちらかに1つずつ〇印)

(1) バスや電車を使ってひとりで外出できますか。	1. はい 2. いいえ
(2) 日用品の買い物ができますか。	1. はい 2. いいえ
(3) 自分で食事の用意ができますか。	1. はい 2. いいえ
(4) 請求書の支払いができますか。	1. はい 2. いいえ
(5) 銀行預金・郵便貯金のおし入れが自分でできますか。	1. はい 2. いいえ
(6) 年金などの書類が書けますか。	1. はい 2. いいえ
(7) 新聞を読んでいますか。	1. はい 2. いいえ
(8) 本や雑誌を読んでいますか。	1. はい 2. いいえ
(9) 健康についての記事や番組に興味がありますか。	1. はい 2. いいえ
(10) 友達の家を訪ねることがありますか。	1. はい 2. いいえ
(11) 家族や友達の相談にのることがありますか。	1. はい 2. いいえ
(12) 病人を見舞うことができますか。	1. はい 2. いいえ
(13) 若い人に自分から話しかけることがありますか。	1. はい 2. いいえ

**問10. 現在のあなたの行動範囲についてお答えください。**

(1) おひとりで主に行動される範囲は次のうちどれですか。(1つだけ〇印)

1. 居室内                      2. 自宅内                      3. 隣近所まで  
4. バスや電車で行かざれるところまで

(2) 付き添いがあるとき、行動される範囲は次のうちどれですか。(1つだけ〇印)

1. 居室内                      2. 自宅内                      3. 隣近所まで  
4. バスや電車で行かざれるところまで



問11. 現在、買い物、散歩、通院などで外出する頻度はどのくらいですか。(1つだけ○印)

- |              |              |
|--------------|--------------|
| 1. ほぼ毎日      | 2. 2～3日に1回程度 |
| 3. 1週間に1回程度  | 4. 1ヶ月に1回程度  |
| 5. ほとんど外出しない |              |

問12. 現在、同居家族以外の方と、直接会っておしゃべりなどする頻度はどのくらいですか。(1つだけ○印)

- |                   |              |
|-------------------|--------------|
| 1. ほぼ毎日           | 2. 2～3日に1回程度 |
| 3. 1週間に1回程度       | 4. 1ヶ月に1回程度  |
| 5. ほとんどおしゃべりなどしない |              |

問13. あなたの行動範囲の変化についてお答えください。

(1) 以前と比べて、行動の範囲が狭くなったと感じることがありますか。(1つだけ○印)

- |        |        |        |
|--------|--------|--------|
| 1. はい  | 2. いいえ | → 問14へ |
| ↓ (2)へ |        |        |

(2) 問13(1)で「1. はい」とお答えの方にお伺いします。その理由を下の1～15の中から選んで下さい。(いくつでも○印)

1. 痛みがある
2. 手・足が不自由である
3. めまいやふらつきがある
4. すぐに疲れる
5. 身体的に不安がある(転倒してしまうなど)
6. 精神的な不安がある(外出が怖い、道に迷ってしまうかもしれないなど)
7. 活動する気力がない
8. 付き添いや介助してくれる人がいない
9. 付き添いや介助してくれる人に気がねをする
10. 室内の設備に問題がある(手すりがない、段差があるなど)
11. 屋外の設備に問題がある(坂や階段があるなど)
12. 周囲の交通量が多い
13. 地理的な問題がある(近所の家や商店が遠いなど)
14. 移動のために補助具(杖や歩行器など)を必要とする
15. その他(具体的に： )

**問14. あなたの最近の状況についてお答えください。**

(※それぞれの項目について、 1. はい 2. いいえ のどちらかに1つずつ〇印)

(1) この1年間に転んだことがありますか。	1. はい 2. いいえ
(2) 横断歩道を青信号の間に渡りきることができますか。	1. はい 2. いいえ
(3) 1 Kmくらいを続けて歩くことができますか。	1. はい 2. いいえ
(4) 片足で立ったまま靴下をはくことができますか。	1. はい 2. いいえ
(5) 水でぬれたタオルや雑巾をきつく絞ることができますか。	1. はい 2. いいえ
(6) この1年間に入院したことがありますか。	1. はい 2. いいえ
(7) 立ちくらみをすることがありますか。	1. はい 2. いいえ
(8) 今までに脳卒中を起こしたことがありますか。	1. はい 2. いいえ
(9) 今までに糖尿病と言われたことがありますか。	1. はい 2. いいえ
(10) 睡眠薬、降圧剤、精神安定剤を服用していますか。	1. はい 2. いいえ
(11) 日常、サンダルやスリッパをよく使いますか。	1. はい 2. いいえ
(12) 目は普通に(新聞や人の顔など)見えますか。	1. はい 2. いいえ
(13) 耳は普通に(会話など)聞こえますか。	1. はい 2. いいえ
(14) 家の中でよくつまずいたり、滑ったりしますか。	1. はい 2. いいえ
(15) 転倒に対する不安が大きいですか? あるいは転倒が怖くて外出を抑えることがありますか。	1. はい 2. いいえ

11 床ずれの予防方法	
12 介護・福祉機器の選び方や使い方	
13 手すりの設置や段差解消など、住宅改造について	
14 医療器具や機器の使い方 (器具・機器名： )	
15 介護保険制度やサービスについて	
16 日常生活の相談にのってくれる機関について	
17 その他 具体的に：	

以下は、主に介護（支援）しているご家族の方への質問です。

ご家族の方がお答えください

\* 以後「あなた」とは、主に介護（支援）しているご家族の方を指します。

介護（支援）者ご自身のことについて

**問18. あなたの性別は（1つだけ○印）**

1. 男                      2. 女

**問19. あなたの年齢は                      歳**

**問20. 現在、仕事、買い物、散歩、通院などで外出する頻度はどのくらいですか。（1つだけ○印）**

1. ほぼ毎日                      2. 2～3日に1回程度  
3. 1週間に1回程度              4. 1ヶ月に1回程度  
5. ほとんど外出しない

**問21. 現在、同居家族以外の方と、直接会っておしゃべりなどする頻度はどのくらいですか。（1つだけ○印）**

1. ほぼ毎日                      2. 2～3日に1回程度  
3. 1週間に1回程度              4. 1ヶ月に1回程度  
5. ほとんどない

**問22. 介護（支援）についてお伺いします。**

(1) 現在、介護（支援）についてお困りのことがありますか？

1. ある                      2. ない      → 問21へ  
↓  
(2) ^

(2) 問21 (1) で「1. ある」と答えた方にお伺いします。

介護（支援）についてお困りのことはどのようなことですか。（いくつでも○印）

1. 介護（支援）方法がわからない  
2. 介護（支援）についての相談相手がない  
3. 身体的に負担がある

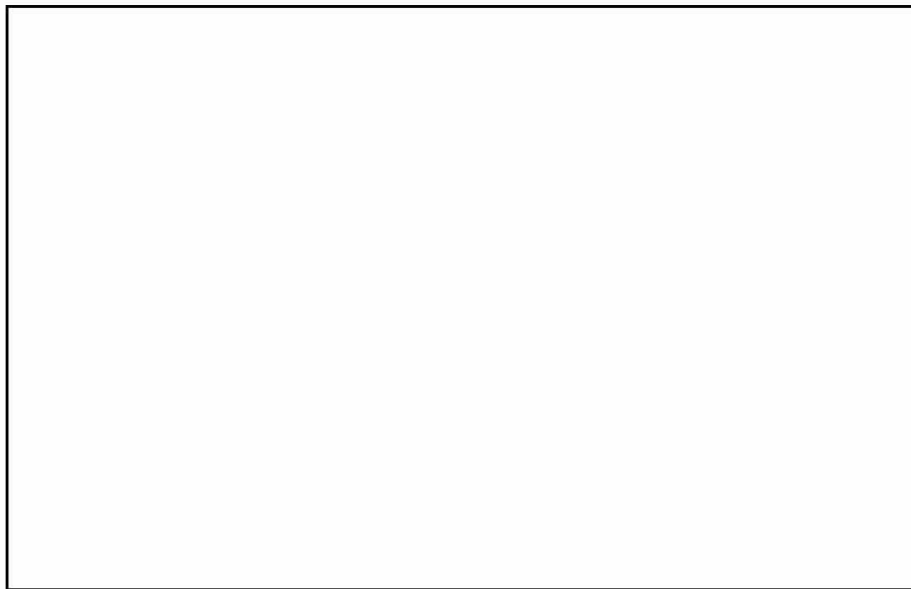






自由回答

問23. 要支援認定者の方の日常生活に関する情報、あるいは介護情報等について、ご意見がございましたら、ご自由にお書きください。



ありがとうございました。質問は以上で終わりです。

恐れ入りますが、同封の返信用封筒（切手不要）で、12月6日（金）までにポストへご投函くださいますようお願いいたします。